

立命館大学 教育研究情報システム アニュアル・レポート 2025

2026 年 8 月 1 日 立命館大学 情報システム部

目次

目次	1
はじめに	3
1 情報環境整備の実績	3
1-1 サーバシステムの整備	3
1-1-1 統合サーバ基盤関連整備	3
1-1-2 クラウドサーバ基盤整備	3
1-2 ネットワーク環境の整備・改善	3
1-2-1 無線 LAN 利用可能エリアの拡張および多重接続性強化	3
1-2-2 新棟建設に伴うネットワーク整備	4
1-2-3 建屋改修に伴うネットワーク整備	4
1-2-4 老朽化したネットワーク機器の更新	4
1-2-5 対外接続回線の増強	4
1-3 授業・自習用 PC 更新整備	4
1-4 教室映像音響システム整備	4
1-5 認証基盤の整備	5
1-6 セキュリティ対策	5
1-6-1 秘密度ラベル導入	5
2 情報環境および各種サービスの利用実態	5
2-1 ネットワーク環境の利用実態	5
2-1-1 ネットワーク回線	5
2-1-2 無線 LAN	10
2-1-3 VPN 接続	12
2-2 パソコン環境の利用実態	15
2-2-1 授業・自習用パソコン(RAINBOW PC)および印刷環境の設置状況	15
2-2-2 情報教室の利用状況	17
2-2-3 マルチメディアルーム設置パソコンの利用状況	19
2-2-4 印刷環境の利用状況	21
2-2-5 授業・自習用パソコン(RAINBOW PC)のソフトウェア利用状況	24
2-3 各種サービスの利用実態	27
2-3-1 メールシステムの利用状況	27

2-3-2 オンラインストレージの利用状況.....	28
2-3-3 各種ソフトウェア配布の利用状況.....	28
2-3-4 視聴覚資料の貸出状況.....	30
3 情報セキュリティの脅威.....	30
4 参考資料	32
4-1-1 2021 年度～2025 年度 学部別学生数の推移.....	32
4-1-2 2021 年度～2025 年度 研究科別学生数の推移	32

はじめに

近年、ICT は社会基盤として不可欠な存在となり、教育・研究活動においてもその重要性は一層高まっている。政府は「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において、AI・デジタル技術の徹底活用やデータ連携の推進、安全・安心なデジタル社会の実現などを掲げ、社会全体のデジタル化を加速させる方針が示されている。

教育分野においては、文部科学省など複数の関係省庁が 2025 年に策定した「教育 DX ロードマップ」において、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現を目指し、教育データの利活用や生成 AI の活用などを踏まえた新たな教育環境の整備が求められている。また、内閣官房が開催する教育未来創造会議において「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」の提言が取りまとめられており、具体的方策として挙げられている「未来を支える人材をはぐくむ大学等の機能強化」の中で「デジタル技術を駆使したハイブリット型教育への転換」、「大学 DX の促進」が必要とされている。

本学では、2020 年以降の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の状況において、オンライン授業の全面展開とそれを支える情報基盤の整備が急速に進展した。これら情報基盤の整備は短期的視点でみるとコロナ禍への対応という位置づけで実施されたものであるが、今後 2030 年代を見据え大学 DX を支える基盤として重要な役割を担っている。

また、学生が個人端末をキャンパスに持参し授業で活用する BYOD（Bring Your Own Device）型の利用形態が一般化したことに伴い、教育・学修を支える情報環境の整備においては、従来の情報教室を中心とした整備に加え、キャンパス全体で学生が自身の端末を円滑に活用できる環境の整備が一層重要になっている。

一方 ICT の急速な広がりによって、情報セキュリティの脅威は組織だけでなく個人にとっても身近な脅威となっており、マルウェアや不正アクセスによる被害が年々増加している。また、特定組織の情報を狙った標的型攻撃や身代金要求型不正プログラムのランサムウェアなどの新たな情報セキュリティの脅威に対抗する必要性が生じている。日々変化する情報セキュリティの脅威から学内の重要な情報資産を守りつつ新しい学びや先進的な研究に資する教育・研究情報システムを継続的に整備する必要がある。

このような状況のもと、本学では、立命館情報基盤整備委員会において策定された情報基盤整備計画に基づき、継続的に情報環境の整備および改善を実施している。本アニュアル・レポートは、2025 年度における教育・研究情報基盤の整備実績および利用実態を整理し、現状の到達度を評価するとともに、今後の情報基盤整備の方向性を検討するための基礎資料とするものである。

1 情報環境整備の実績

1-1 サーバシステムの整備

1-1-1 統合サーバ基盤関連整備

統合サーバ基盤の定期メンテナンスとして仮想化基盤ソフトウェアをアップデートした。また、ネットワーク機器の脆弱性情報が公表されたため、アップデートした。

1-1-2 クラウドサーバ基盤整備

クラウドサービスの機能廃止や仕様変更への対応として、ネットワーク設定および仮想サーバの通信方式を変更した。

1-2 ネットワーク環境の整備・改善

1-2-1 無線 LAN 利用可能エリアの拡張および多重接続性強化

過年度から継続して無線 LAN の利用可能エリアの拡張および多重接続性強化を図るため、各学部・部課からの整備要望を踏まえ無線 LAN のアクセスポイントを増設した。

増設箇所：衣笠キャンパス（志学館、至徳館、恒心館、洋洋館）

増設台数：6 台

1-2-2 新棟建設に伴うネットワーク整備

BKC グラスルーツイノベーションセンターおよび立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ建設に伴い、各施設のネットワーク設備を整備した。

1-2-3 建屋改修に伴うネットワーク整備

デザイン・アート学部およびデザイン・アート学研究科の設置による衣笠キャンパス 充光館の改修に伴い、ネットワーク設備を整備した。

1-2-4 老朽化したネットワーク機器の更新

保守期限が到来し老朽化したネットワーク機器を更新した。

- | | | | |
|---|---------|---|--------------|
| ① | OIC | : | DHCP サーバ |
| ② | 朱雀キャンパス | : | 基幹ネットワークスイッチ |

1-2-5 対外接続回線の増強

学内からインターネットへ接続する対外接続回線について、2025 年 10 月に通信速度が 18.06Gbps に到達したことを踏まえ、通信帯域を 20Gbps から 200Gbps へ増強した。これに伴い、回線増強に対応するために学術情報ネットワーク（SINET）と接続しているネットワークスイッチについて機器を更新した。

1-3 授業・自習用 PC 更新整備

OIC の情報教室等に設置されている授業・自習用 PC について、保守サポートの終了および老朽化に伴い、PC 本体および PC 管理システムを更新した。コロナ禍以降、学生個人端末を授業で活用する BYOD が浸透しており、専門的ソフトウェアを要しない授業については一般教室での実施も可能となっている。このような利用形態の変化および教室稼働状況を踏まえ、従来 8 教室であった情報教室を 6 教室に削減し、残る 2 教室については、汎用性の高い一般教室（収容定員 40 名程度の小教室）へ改修した。

1-4 教室映像音響システム整備

2025 年度は年次計画における整備として、老朽化した教室のシステム全体の更新と、表示装置や制御装置、書画カメラなど一部の機器について老朽化度合いを加味して更新した。また、キャンパス整備計画に関連して、衣笠キャンパスでは、以学館改修の一環で新たに小教室を整備したほか、BKC ではアクロスウイングの大学院教室 1 室が廃止となった。他に、2-3 授業・自習用 PC 更新整備に関連して、大阪いばらきキャンパスにおいて、2 部屋を情報教室から一般教室へ転換する整備、ラーニングスタジオ教室 1 室を BYOD を使ったグループワークに最適化する機能強化整備を実施した。

- | | | |
|---|----|---|
| ① | 衣笠 | システム更新：中教室 1 室、情報教室 2 室、全学施設に転換する教室の整備：小教室 1 室、 |
| | | 表示装置更新：8 室、書画カメラ更新：15 室、制御システム更新：2 室 |

- ② BKC システム更新：中教室3室、小教室4室、表示装置：更新20室、制御システム更新：3室
- ③ OIC システム更新：大教室2室、小教室17室、ラーニングスタジオのグループ機能強化：1室、情報教室の一般教室化：2室
- ④ 東京 表示装置更新：2室

		プロジェクタ	ディスプレイ	Bluray	VHS	カセットデッキ	書画カメラ	HDMI入力	教室数
衣笠	台数（前年増減）	201(+1)	224(0)	247(+1)	169(-1)	131(-1)	254(+1)	254(+1)	254(+1)
	設置率（前年比）	79%(+0%)	88%(0%)	97%(+0%)	67%(-1%)	52%(-1%)	100%(0%)	100%(0%)	
BKC	台数（前年増減）	156(0)	155(-1)	161(-1)	127(-7)	84(-4)	161(-1)	161(-1)	161(-1)
	設置率（前年比）	97%(+1%)	96%(0%)	100%(0%)	79%(-4%)	52%(-2%)	100%(0%)	100%(0%)	
朱雀	台数（前年増減）	16(0)	17(0)	18(0)	15(0)	1(0)	19(0)	18(0)	19(0)
	設置率（前年比）	84%(0%)	89%(0%)	95%(0%)	79%(0%)	5%(0%)	100%(0%)	95%(0%)	
OIC	台数（前年増減）	64(+2)	34(-124)	160(+2)	0(0)	0(0)	136(+2)	160(+2)	160(+2)
	設置率（前年比）	40%(+1%)	21%(-79%)	100%(0%)	0%(0%)	0%(0%)	85%(+0%)	100%(0%)	

表1 一般教室における主要機材の設置状況(2026年3月末現在)

1-5 認証基盤の整備

学園情報システムにおけるID管理システムは、運用開始から10年以上経過し設計思想が老朽化していることから、R2030後半期の新たな展開に対応し多種多様なステークホルダーを柔軟に受け入れることが難しい状況にある。現システムの保守限界を見据え、次期ID管理システム構想を具体化し開発に着手した。

1-6 セキュリティ対策

1-6-1 秘密度ラベル導入

個人情報漏洩対策の一環として、教職員が業務で取り扱う文書を対象に、文書ファイルの暗号化および閲覧制御を行う情報保護機能（秘密度ラベル）の運用を開始した。文書作成者が付与するラベルに応じて閲覧可能な範囲を制御し、権限のない利用者は文書を閲覧できない仕組みとすることで、メールの誤送信や端末の紛失、不正アクセス等による情報漏洩リスクの低減を図る。

2 情報環境および各種サービスの利用実態

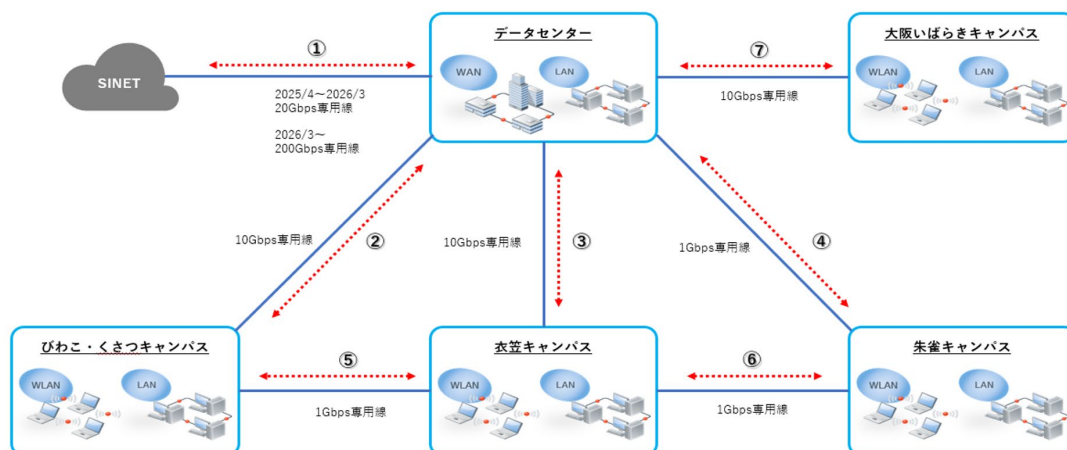
2-1 ネットワーク環境の利用実態

2-1-1 ネットワーク回線

2025年度における、学内からインターネットへのアクセス回線（対外線）の利用状況(図1-①)は、開講時期で最大18.06Gbps程度と2021年度（6.3Gbps）、2022年度（11.05Gbps）、2023年度（12.99Gbps）、2024年度（15.29Gbps）と比較して増加している。これはBYOD導入が進んだことや、学内の無線の通信環境などが改善し各端末の通信量が増大したことが要因と推測される。最大利用量は2025年10月に現行帯域の約90%に達し、それを踏まえ2026年3月に200Gbpsへ回線を増強した。

図1-②から図1-⑦までのキャンパス間回線およびデータセンターとキャンパス間の回線ならびに図2-①から図2-⑨までの附属校/APUとデータセンター間の回線の平均利用状況は50%以上の空き帯域があり余裕を持って運用できている。

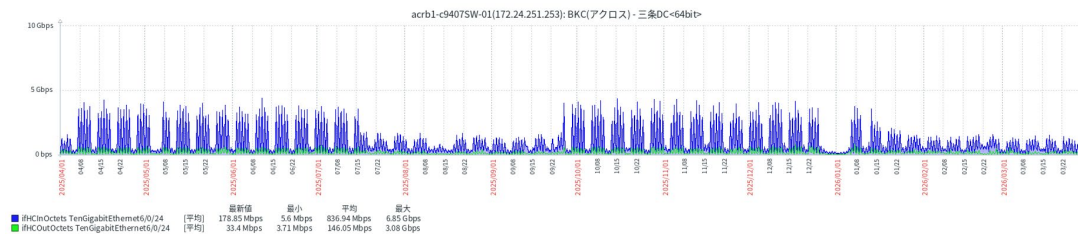
立命館大学ネットワーク概念図およびネットワーク利用帯域の推移（2025年度）



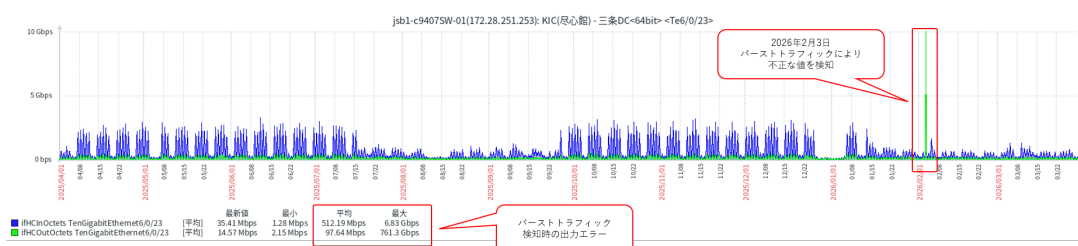
① データセンター ~ SINET



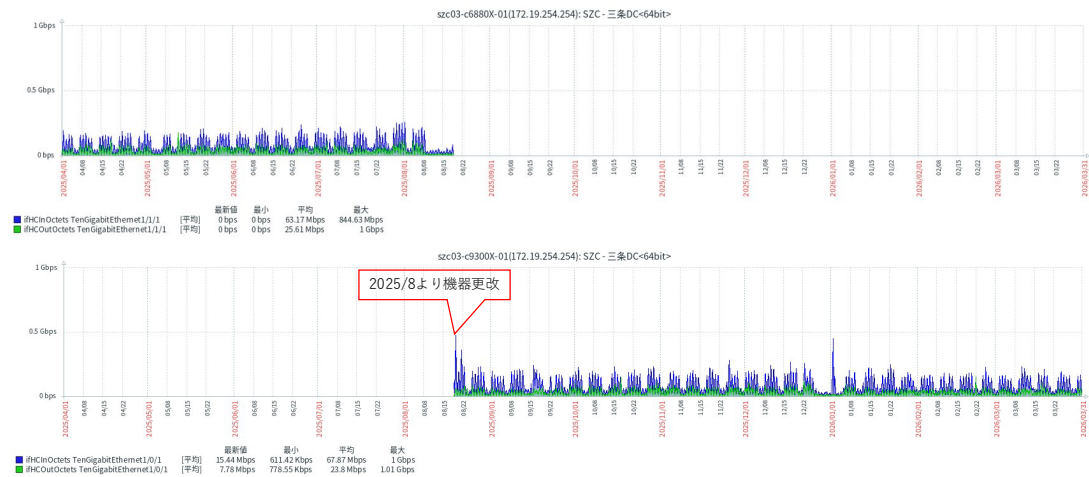
② びわこ・くさつキャンパス(アクロスウイング)~ データセンター



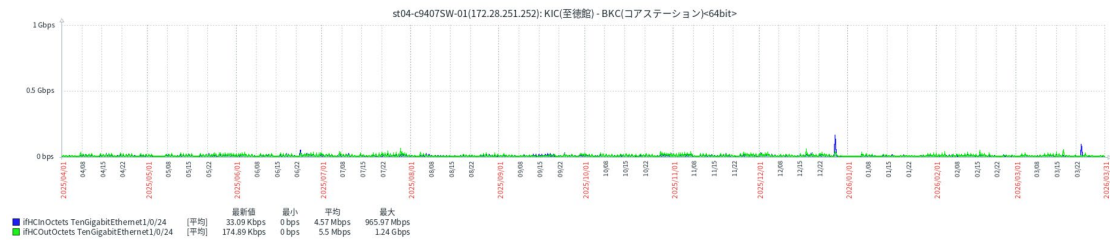
③ 衣笠キャンパス(尽心館)~ データセンター



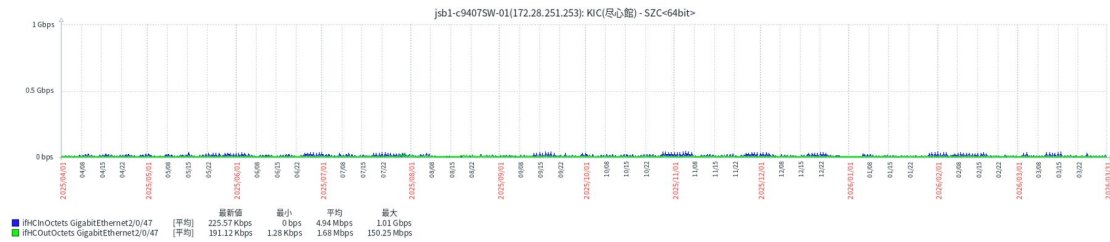
④ 朱雀キャンパス ～ データセンター



⑤ 衣笠キャンパス(至徳館)～ びわこ・くさつキャンパス(コアステーション)



⑥ 衣笠キャンパス(尽心館)～ 朱雀キャンパス



⑦ 大阪いばらきキャンパス ～ データセンター

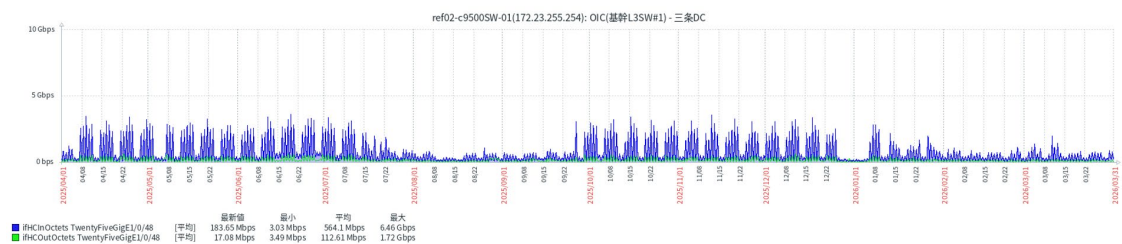
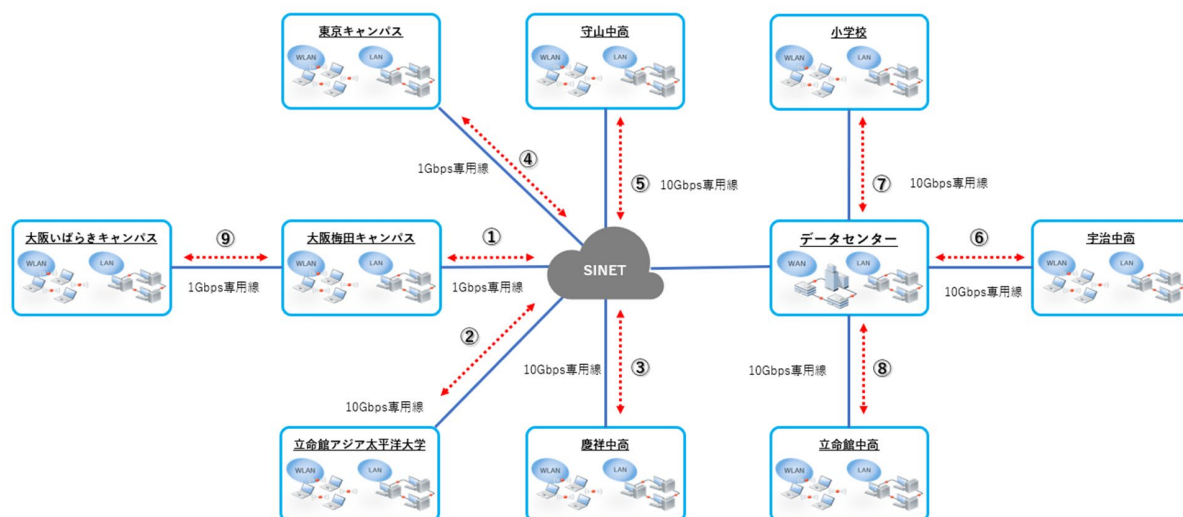
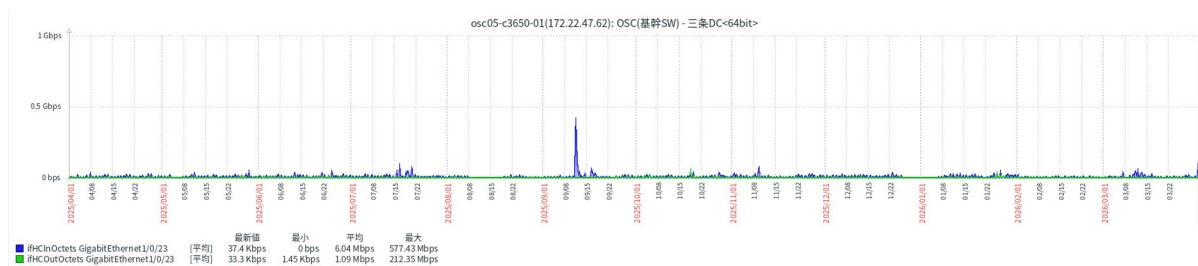


図1 立命館大学ネットワーク概念図およびネットワーク利用帯域の推移

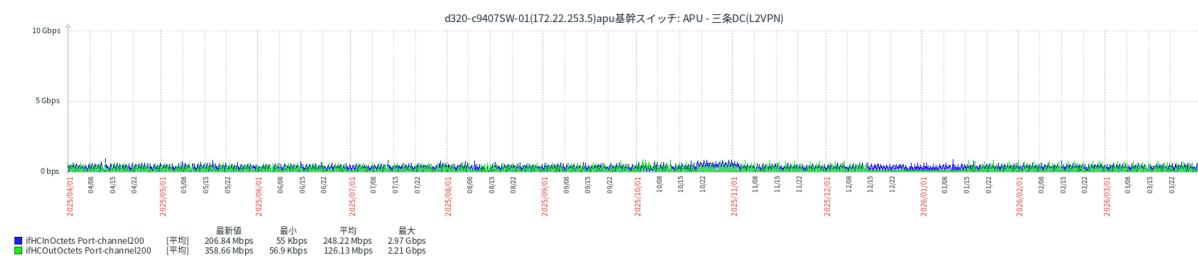
各校のネットワーク概念図およびネットワーク利用帯域の推移（2025年度）



① 大阪梅田キャンパス ～ SINET



② 立命館アジア太平洋大学 ～ SINET



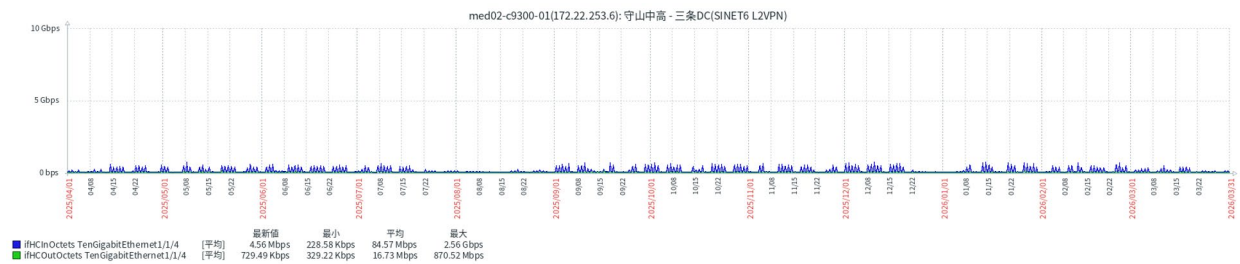
③ 立命館慶祥中高 ～ SINET



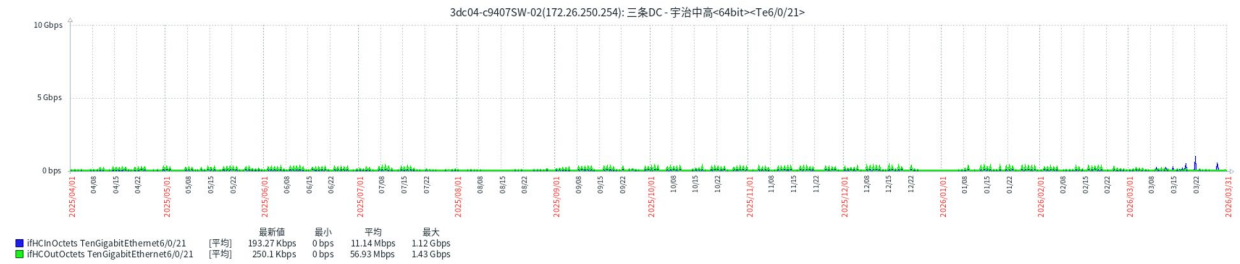
④ 東京キャンパス ～ SINET



⑤ 立命館守山中高 ～ SINET



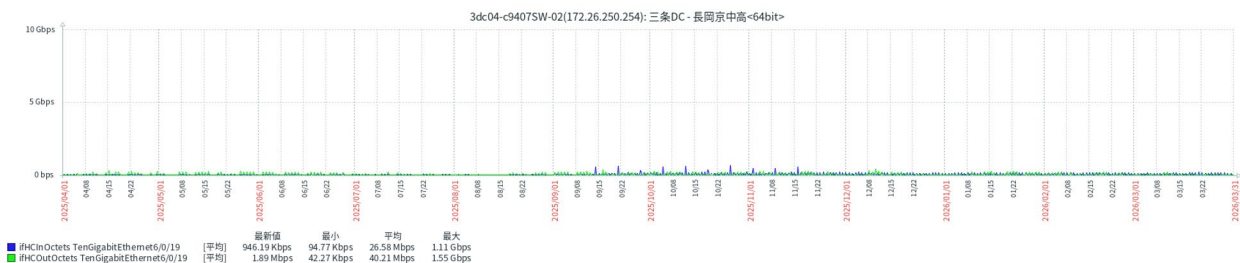
⑥ 立命館宇治中高 ～データセンター



⑦ 立命館小学校 ～ データセンター



⑧ 立命館中高 ～データセンター



⑨ 大阪いばらきキャンパス ～ 大阪梅田キャンパス



図 2 各校のネットワーク概念図およびネットワーク利用帯域の推移

2-1-2 無線 LAN

無線 LAN 延べログイン数（図 3）は 2024 年度よりも約 2.6 倍と大幅に増加した。延べログイン数は衣笠キャンパス、BKC、および朱雀キャンパスの学部・研究科が特に増加している（図 5、図 6）。これは学生や教員が利用する個人端末数が増えたことに加え、衣笠キャンパス、BKC、および朱雀キャンパスの無線 LAN の制御機器が 2024 年度に変更となりローミング（異なるアクセスポイントに自動的に接続を切り替える技術）が起きる頻度が増えたことが要因と推測される。

一方で、無線 LAN 実利用者数（図 4）は 2024 年度と同等程度の水準となった。これは、学部別および研究科別の無線 LAN 利用率が既に高水準で推移しており（図 9、図 10）、特に学部生の無線 LAN の利用率が全ての学部で 90%を超えたことから、利用者数としては頭打ちの状態に達していることが一因と考えられる。

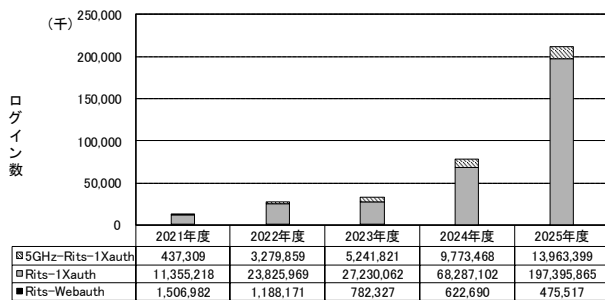


図 3 無線 LAN 延べログイン数の推移 ※教職員その他利用含む

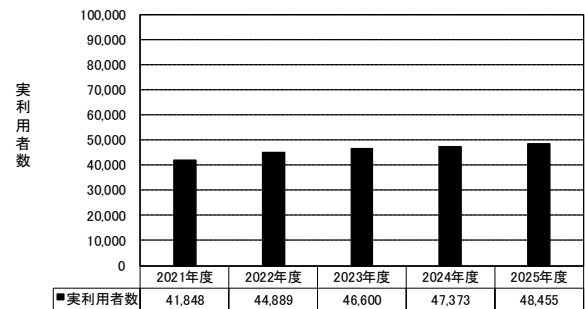


図 4 無線 LAN 実利用者数の推移 ※教職員その他利用含む

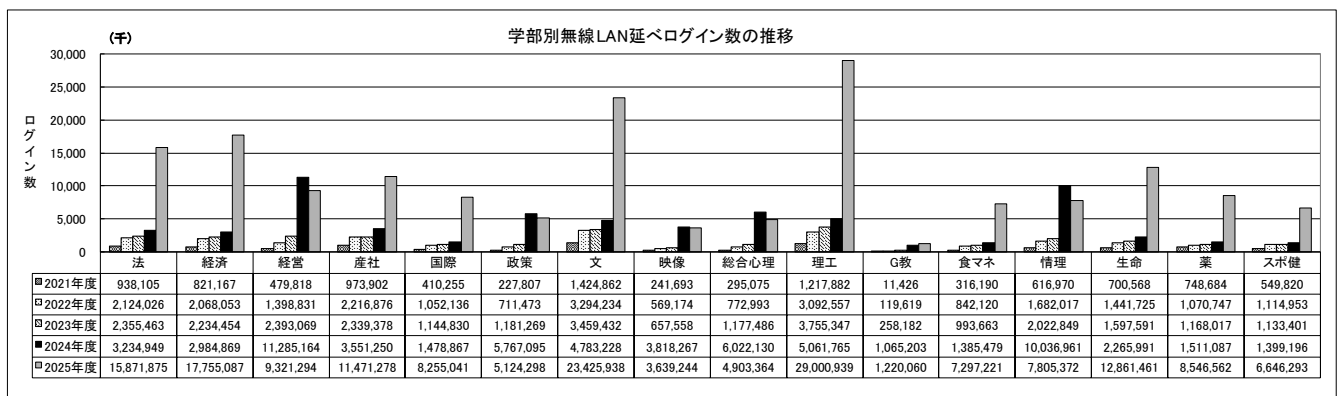


図 5 学部別無線 LAN 延べログイン数の推移 ※学部の正規生・非正規生のみ

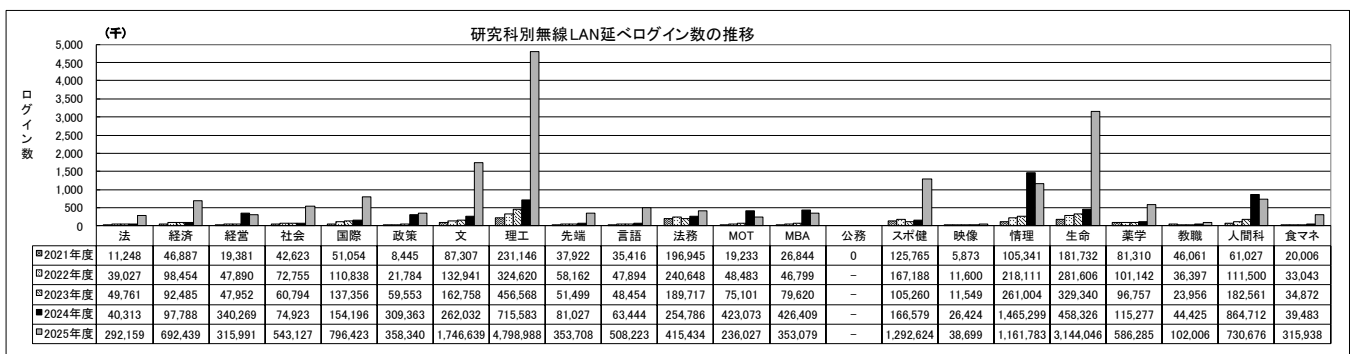


図 6 研究科別無線 LAN 延べログイン数の推移 ※研究科の正規生・非正規生のみ

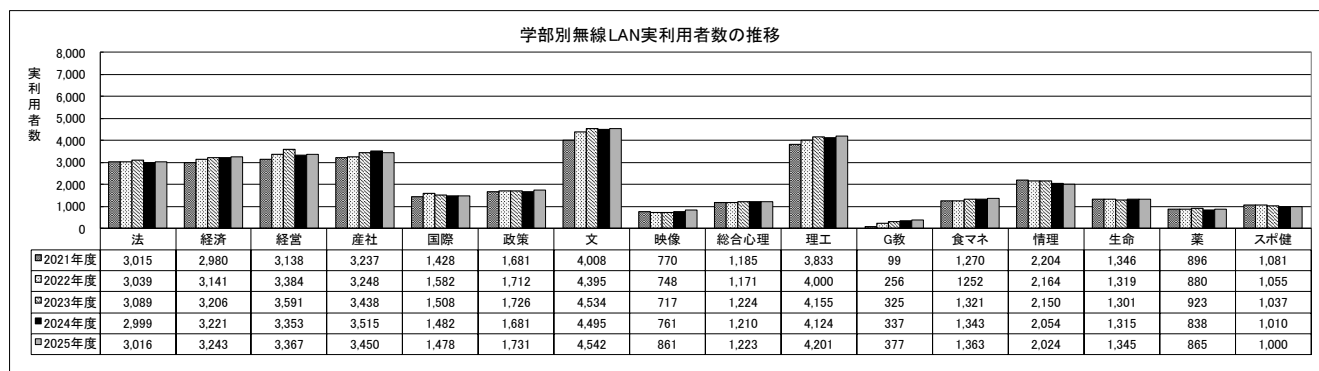


図 7 学部別無線 LAN 実利用者数の推移 ※学部の新規生・非正規生のみ

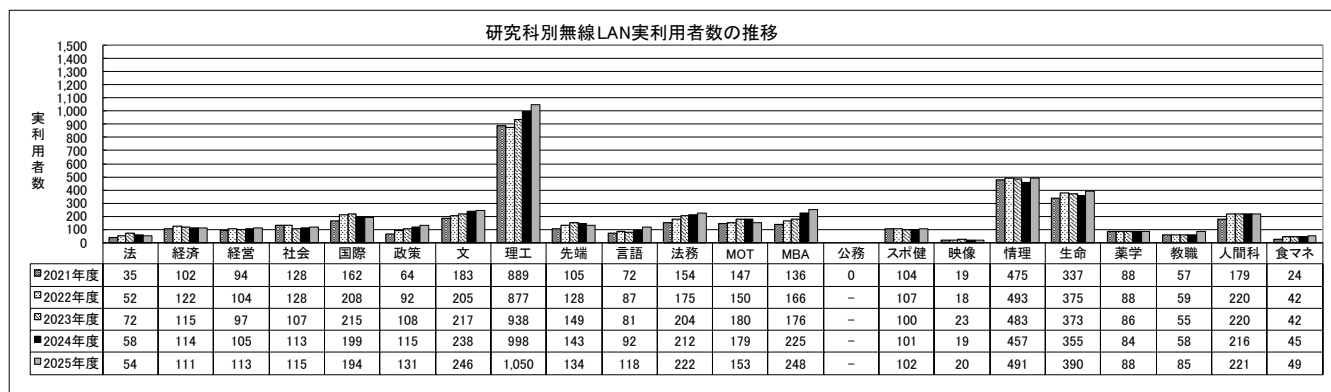


図 8 研究科別無線 LAN 実利用者数の推移 ※研究科の新規生・非正規生のみ

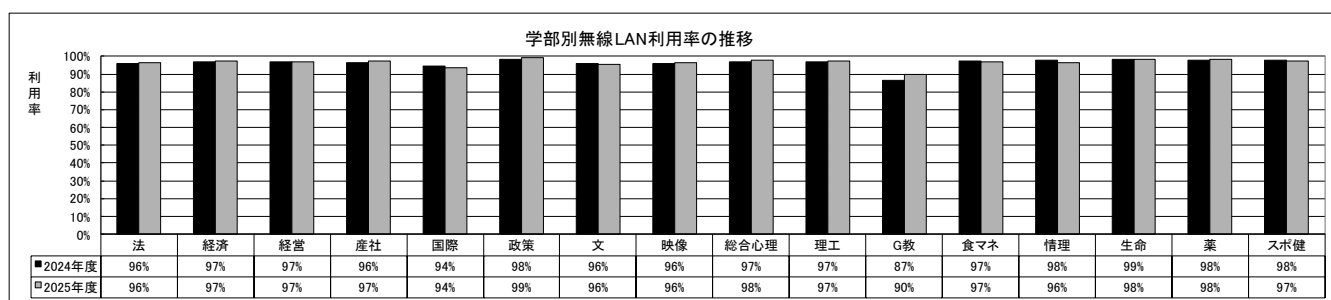
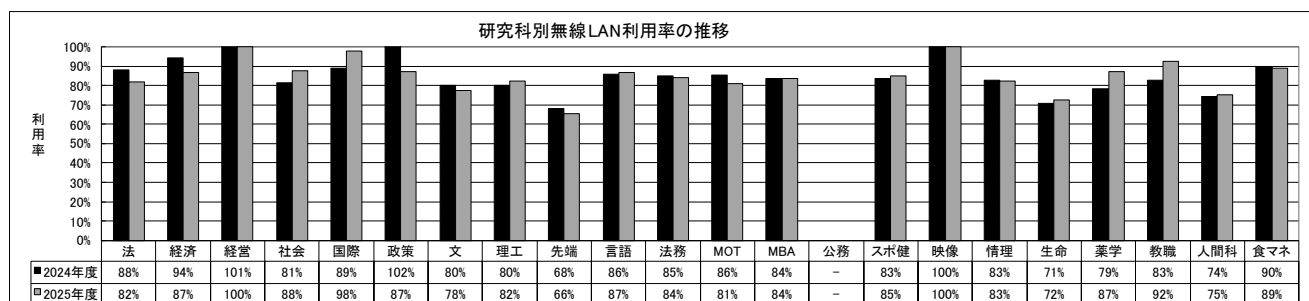


図 9 学部別無線 LAN 利用率 ※2024 年度からの新規図、学部の新規生・非正規生のみ



※年度途中の離籍者、秋学期入学者等は考慮できていないため一部 100%を超過している

図 10 研究科別無線 LAN 利用率 ※2024 年度からの新規図、研究科の新規生・非正規生のみ

2-1-3 VPN 接続

VPN とは「Virtual Private Network」の略で、自宅や外出先などの学外からインターネットを使って RAINBOW ネットワーク（学内）に接続するサービスで、学内のネットワークに接続したパソコン（マルチメディアルームや情報教室のパソコンや無線 LAN 接続の個人所有パソコンなど）からしか利用できない図書館データベースなどのサービスを自宅など学外から利用することができる。2023 年度以降ログイン数・利用者数減少の傾向が続いている（図 11、図 12）。学部別および研究科別の VPN ログイン数および実利用者数は図 13～図 18 の通り。

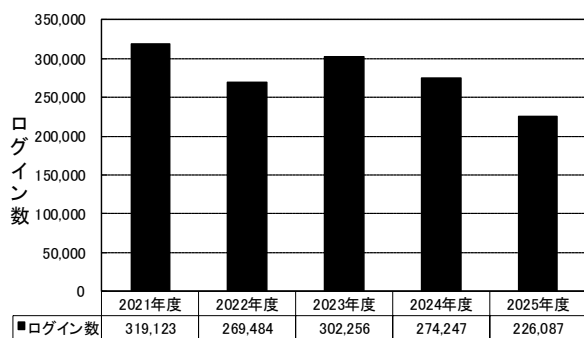


図 11 VPN 接続延べログイン数の推移 ※教職員その他利用含む

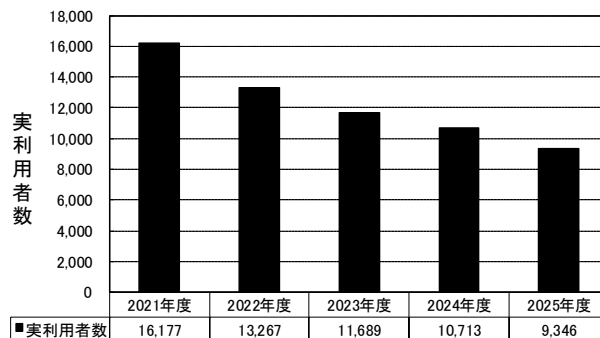


図 12 VPN 接続実利用者数の推移 ※教職員その他利用含む

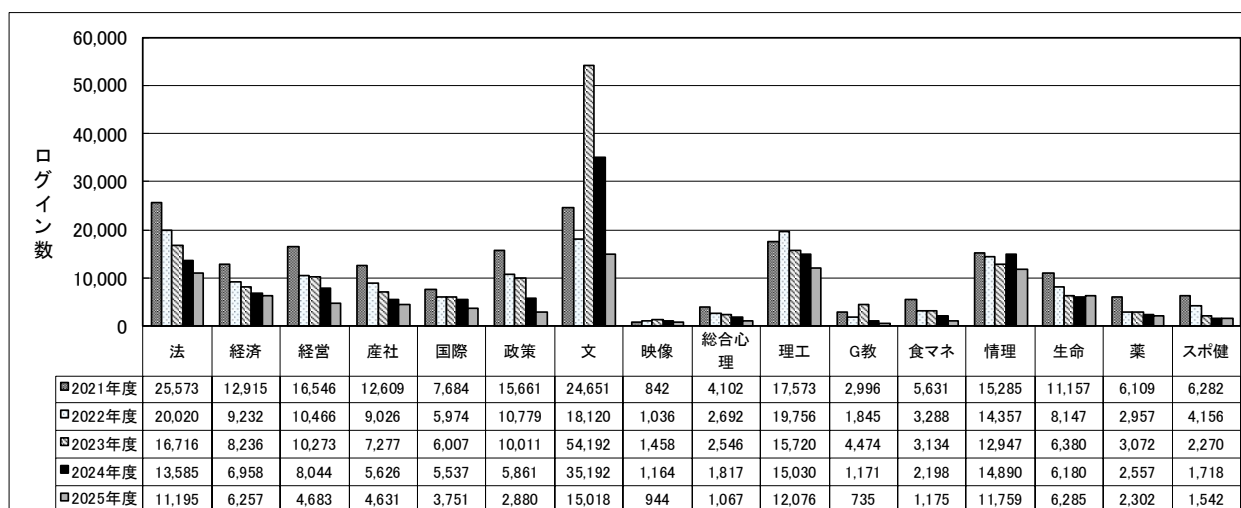


図 13 学部別 VPN 接続延べログイン数の推移 ※学部の正規生・非正規生のみ

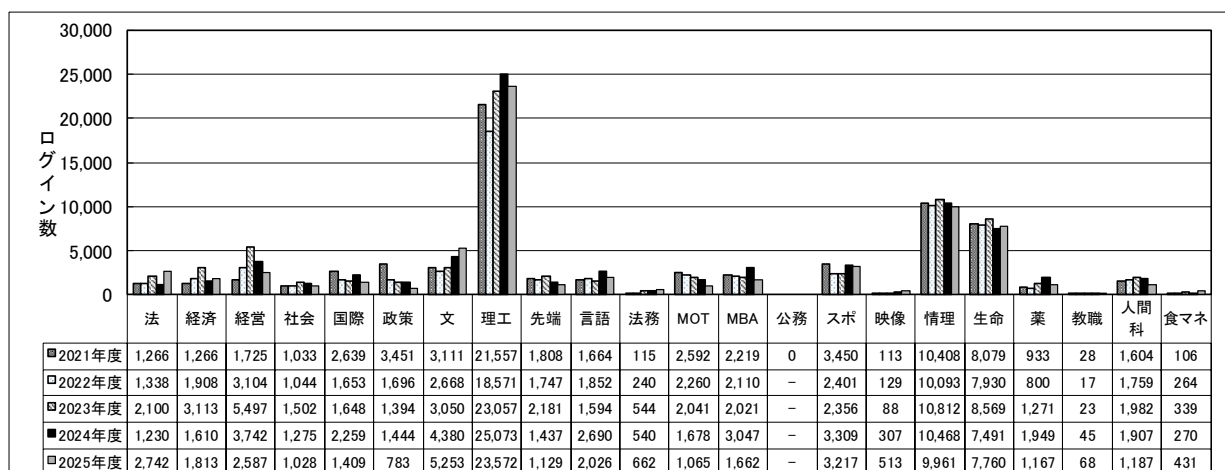


図 14 研究科別 VPN 接続延べログイン数の推移 ※研究科の正規生・非正規生のみ

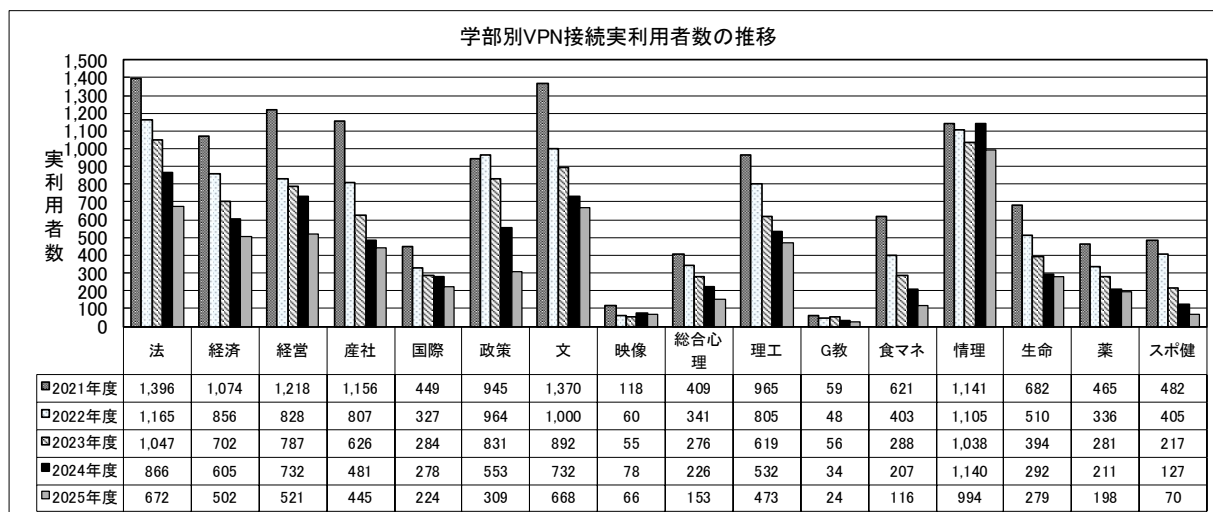


図 15 学部別 VPN 接続実利用者数の推移 ※学部の新規生・非正規生のみ

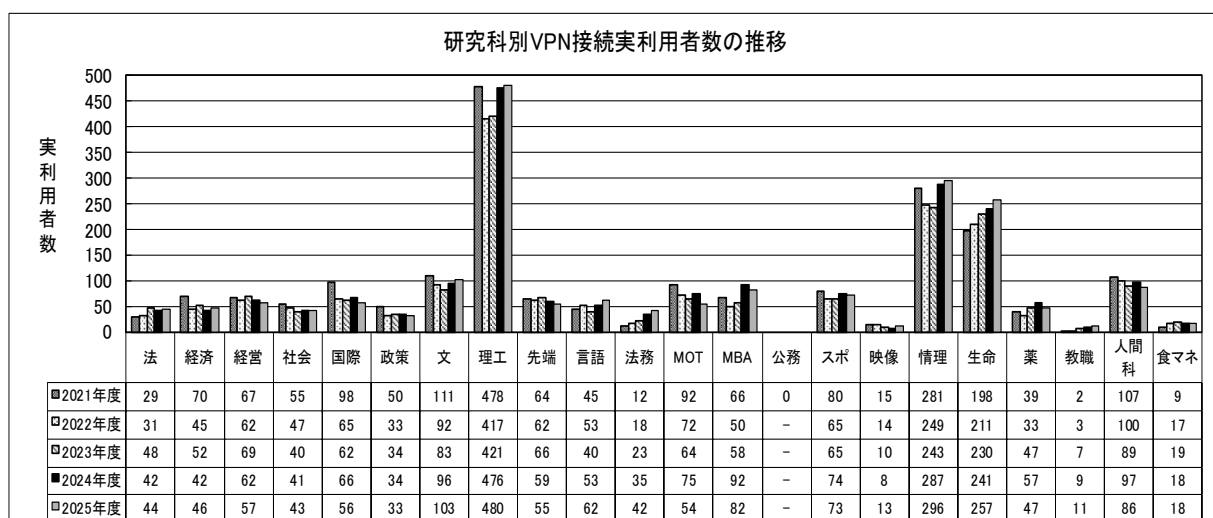


図 16 研究科別 VPN 接続実利用者数の推移 ※研究科の新規生・非正規生のみ

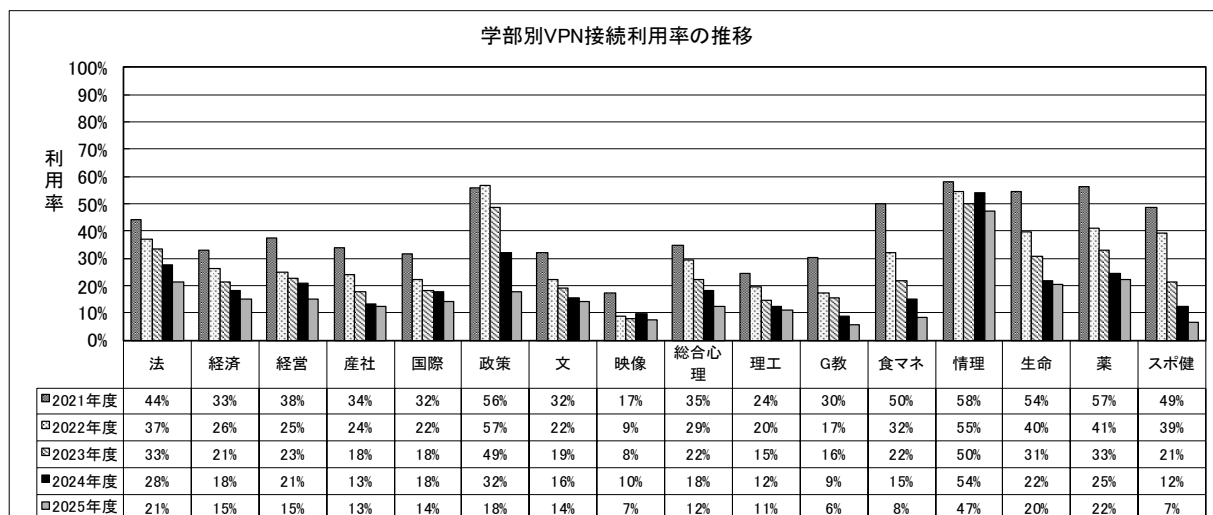


図 17 学部別 VPN 接続利用率の推移 ※学部の正規生・非正規生のみ

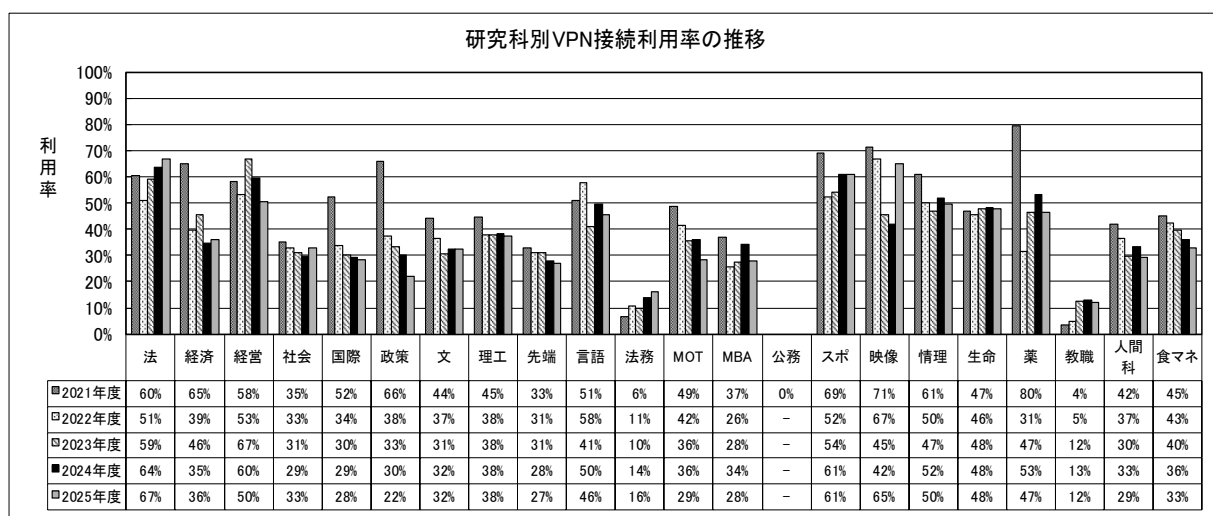


図 18 研究科別 VPN 接続利用率の推移 ※研究科の正規生・非正規生のみ

2-2 パソコン環境の利用実態

2-2-1 授業・自習用パソコン(RAINBOW PC)および印刷環境の設置状況

1) 情報教室

情報教室には情報処理演習室と情報語学演習室の2種類があり、情報語学演習室では教材の音声を教卓から学生卓のヘッドセットに配信できる仕組みを導入している(表2)。但し感染症の接触感染予防の観点からヘッドセットは備え付けず、利用者が持ち込んだヘッドセットを利用する運用としている。

これらの教室では、原則として受講生1名が1台のパソコンを使用できる。また2席のパソコンの中間に、教卓で操作している教員のパソコン画面や、教材提示装置、AV機器の映像を提示できるモニターを配置している。

パソコンは、ソフトウェアの不具合やセキュリティ上の問題に対応するため、月に1回、環境保全のために更新している。3,000台弱のパソコンを効率的に管理するために、ソフトウェアのバージョンアップを管理サーバにて集中的に実施できる仕組みを整備している。これにより教室の利用制限を最小限に抑えつつ迅速な環境更新を実現している。また、多数の利用者が共用することを前提に、利用者によりパソコンのローカルディスクに置かれたファイル等はログオフ時に消去して、標準の状態に戻るよう設定している。

キャンパス	建屋名	階	教室名	台数
衣笠 キャンパス	有心館	2	YS201(情報語学演習室2)	45
			YS202(情報語学演習室1)	45
		3	YS203(情報処理演習室1)	80
			YS301(情報語学演習室4)	40
		4	YS302(情報処理演習室2)	80
			YS303(情報語学演習室3)	40
		4	YS401(情報語学演習室6)【サテライト 対応】	40
			YS402(情報語学演習室5)	40
	尽心館	B1	YS403(情報処理演習室3)	80
			JS001(情報語学演習室1)	50
		2	JS002(情報処理演習室1)	80
	以学館	2	IG201(情報処理演習室1)	86
	恒心館	2	KS206(情報語学演習室1)	70
			3	KS301(デジタルセミナールーム1)
B1		YY001(情報処理演習室2)	88	
		YY304(情報語学演習室3)	40	
		YY405(情報処理演習室1)	80	
洋洋館	4	YY505(情報語学演習室1)	50	
		YY506(情報語学演習室2)	40	
小計				1,114
びわこくさつ キャンパス	プリズムハウス	2	情報語学演習室P21	40
			情報語学演習室P22	40
			情報語学演習室P23	40
			情報語学演習室P24	40
		3	情報処理演習室P25	70
			情報処理演習室P26	85
			情報処理演習室P31	71
			情報処理演習室P32	85
	コラーニング ハウスⅠ	1	情報処理演習室P33	85
			情報処理演習室P34	92
		2	情報語学演習室C11	40
			情報語学演習室C12	40
	アクロスウィング	2	情報処理演習室C21	115
			情報処理演習室C22	115
		3	情報処理演習室C31	115
			情報処理演習室C32	135
		1	情報語学演習室AC11	40
			情報語学演習室AC12	40
小計				1,368
大阪いばらき キャンパス	A棟	2	AN224	65
		2	AN227	41
		2	AN228	41
		2	AC244	65
		2	AC247	41
		2	AC248	41
		2	AS264	41
		2	AS267	105
小計				440
朱雀キャンパス		3	情報演習室	40
小計				40
合計				2,962

表2 授業・自習用パソコン(RAINBOW PC)設置状況一覧(情報教室)

2) マルチメディアルーム等

マルチメディアルーム(以下、MMR)は、情報教室と同一ソフトウェアが利用可能なパソコンで自学自習することを目的として設置されている(表3)。

自学自習のためのパソコンはMMR以外にも、大学院生共同研究室、情報語学自習室、ピア・ラーニングルーム、大阪梅田キャンパスの自習エリアなどにも設置されている。いずれも、情報教室と同じソフトウェア環境を整備している。

キャンパス	建屋名	階	教室名	台数
衣笠 キャンパス	尽心館	B1	マルチメディアルーム	45
	図書館	1	ピア・ラーニングルーム	32
	洋洋館	1	マルチメディアルーム	5
	存心館	1	ろこも	12
	清心館	1	ラウンジ・コモンズ	5
			プリントステーション	12
			小計	111
びわこくさつ キャンパス	メディアセンター	1	マルチメディアルーム	99
		1	ピア・ラーニングルーム	2
	プリズムハウス	1	マルチメディアルーム	94
		2	ピア・ラーニングルーム	10
	アクロスウィング	3	HIROBA	70
			プリントステーション	6
			小計	281
大隈いばらき キャンパス	B棟	2	図書館ラーニングコモンズ	21
	C棟	2	ICT-Lab	20
			エクスプレスPC	34
			小計	75
			合計	467

表3 授業・自習用パソコン(RAINBOW PC)設置状況一覧(MMR)

3) 貸出用ノートパソコン

衣笠キャンパス、BKC、OIC の各教員ラウンジなどでは、主に教員に対してノートパソコンの貸出しを行っている。衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館と BKC メディアライブラリー、OIC 図書館では、図書館施設を利用する学生に対して、また OIC の ICT-Lab. では、キャンパス内で利用する学生に対してノートパソコンの貸出しを行っている。これらのパソコンは、文書作成や表計算、ブラウジングなどの標準的なソフトウェアが動作するようになっており、また、多数の利用者が共用することを前提に、利用者によりパソコンのローカルディスクに置かれたファイル等はログオフ時に消去して、標準の状態に戻るように設定している。インストールされているソフトウェアの不具合やセキュリティ上の脆弱性に対応するため、半年に 1 回、全台に対してセキュリティアップデート等のメンテナンスを行っている。

キャンパス	建屋名	階	教室名	台数
衣笠 キャンパス	有心館	1	RAINBOWサービスデスク	10
		1	共通教育課	2
		1	教員ラウンジ	98
		1	文学部事務室	2
		1	国際関係学部事務室	2
		1	独立研究科事務室	6
			小計	120
びわこ・くさつ キャンパス	プリズムハウス	1	教員ラウンジ	46
	アドセナリオ	1	経済学部事務室	12
	インテグレーションコア	1	スポーツ健康科学部事務室	3
	コアステーション	1	理工学部事務室	5
	リンクススクエア	2	生命科学部事務室	2
	サイエンスコア	1	薬学部事務室	4
	アクロスウイング	1	教職教育課	1
		2	RAINBOWサービスデスク	10
			小計	83
大原いばらき キャンパス	A棟	1	教員ラウンジ	10
	H棟	2	授業準備室	5
			小計	15
	朱雀キャンパス	1	キャンパス管理	3
			小計	3
			合計	221

表 4 教員向け貸出用ノートパソコン設置状況一覧

キャンパス	建屋名	階	教室名	台数
衣笠 キャンパス	平井嘉一郎記念図書館	1	貸出ロッカー	88
	読誦館	1	事務室	42
小計				130
びわこ・くさつ キャンパス	アクロスウイング	2	ひあら	36
小計				36
大原いばらき キャンパス	B棟	2	図書館	5
	C棟	2	ICT-Lab(貸出ロッカー)	40
小計				45
合計				211

表 5 学生向け貸出用ノートパソコン設置状況一覧

4) 印刷環境

印刷環境として授業・自習用パソコン（RAINBOW PC）の設置場所にプリンター（MMR は複合機）を設置している。また、情報教室や MMR が開室していない時間帯でも利用可能な複合機をオープンスペースに設置しており、これをプリントステーションと呼称している。MMR およびプリントステーションでは、学生が持参したパソコン、タブレット端末、スマートフォンからも印刷が可能であり、BYOD を支える環境となっている。

キャンパス	建物	設置場所区分	モノクロ	カラー	大判	課金対象	備考
衣笠 キャンパス	有心館	教材開発環境・教員控室			1	○	
	洋洋館	MMR/ラーニング・コモンズ 情報教室	12	1		○	※
	恒心館	教材開発環境・教員控室	1			○	
		情報教室	3			○	
		大学院生利用施設	2			○	
	尽心館	MMR/ラーニング・コモンズ		1		○	※
		情報教室	4	1		○	※
	以字館	プリントステーション		3		○	※
		情報教室	2			○	
	歌字館	プリントステーション		2		○	※
	創思館	教材開発環境・教員控室	1			○	
	研心館	就職支援コーナー	1			○	
	図書館	MMR/ラーニング・コモンズ	2			○	※
		図書館施設	1			○	
		障害者支援施設	1	1		○	※
	学而館	プリントステーション		2		○	※
		教材開発環境・教員控室	2			○	
	玄讀館	大学院生利用施設	7	5		○	※
	修字館	教材開発環境・教員控室	6			○	
		図書館施設	2			○	
	至徳館	教材開発環境・教員控室	1			○	
	清心館	MMR/ラーニング・コモンズ		1		○	※
		プリントステーション		2		○	※
	存心館	教材開発環境・教員控室	1	3		○	※
	興字館	就職支援コーナー	1			○	
	衣笠体育館	教材開発環境・教員控室	1			○	
	外部施設	外部施設	3			○	
小計			68	24	1		

キャンパス	建物	設置場所区分	モノクロ	カラー	大判	課金対象	備考	
びわこ・くさつ キャンパス	アクロスウイング	MMR/ラーニング・コモンズ	1	2		○	※	
		教材開発環境・教員控室	4	2	1	○		
		情報教室	4			○		
		プリントステーション	1	2		○	※	
		就職支援コーナー	1			○		
		図書館施設	1			○		
	コラーニングハウス	大学院生利用施設	3			○		
		プリントステーション		2		○	※	
	情報教室		7	3	2	○		
		大学院生利用施設	1			○		
	プリズムハウス	MMR/ラーニング・コモンズ		2		○	※	
		教材開発環境・教員控室	3			○		
大原いばらき キャンパス	メディアセンター	情報教室	16			○		
		就職支援コーナー				○		
		MMR/ラーニング・コモンズ	1	3		○	※	
		図書館施設	1			○		
		プリントステーション		2		○	※	
		セントラルアーク		1		○	※	
	リンクスクエア	プリントステーション		1		○	※	
		プリントステーション		1		○	※	
	インテグレーションコア	大学院生利用施設	1			○		
		小計	44	20	3			
	朱雀キャンパス	A棟	プリントステーション		12		○	※
			教材開発環境・教員控室	3			○	
就職支援コーナー			2			○		
情報教室			11			○		
大学院生利用施設				8		○	※	
その他施設				2		○	※	
B棟		図書館施設	1			○		
		プリントステーション	3			○	※	
C棟		MMR/ラーニング・コモンズ	1			○	※	
		教材開発環境・教員控室	1			○	※	
D棟		MMR/ラーニング・コモンズ		1	1	○	※	
		情報教室		2	2	○	※	
H棟	プリントステーション	1			○	※		
	MMR/ラーニング・コモンズ		4		○	※		
小計			23	32	3			
大原キャンパス	中川会館	教材開発環境・教員控室	1			○		
		情報教室	1			○		
		図書館施設	1			○		
		大学院生利用施設	1	3		○	※	
小計			4	3	0			
東京キャンパス		教材開発環境・教員控室	1			○		
		大学院生利用施設	2			○		
		プリントステーション		1		○	※	
		小計	3	1	0			
東京キャンパス		就職支援コーナー	1	1		○		
		教材開発環境・教員控室	1			○		
		小計	2	1	0			
		合計	144	81	7			

※オンライン印刷用のPC設置施設、または複合機設置施設

表 6 プリンター設置状況一覧

2-2-2 情報教室の利用状況

1) 授業での情報教室の利用状況

情報教室利用の開講授業数、担当教員数は、2022 年以降横ばい傾向にあったが、2025 年度は減少している。（図 19～20）。

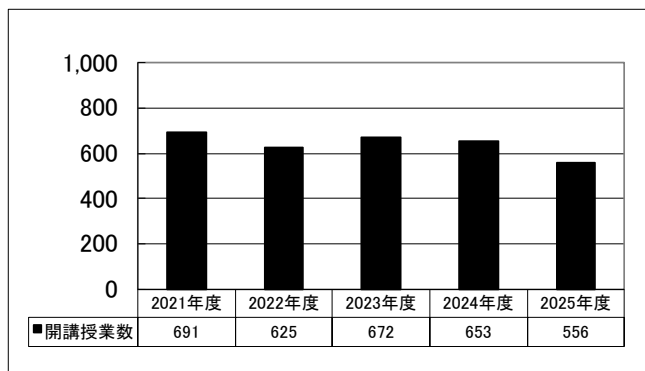


図 19 情報教室利用の開講授業数
※RISING 授業情報より算出

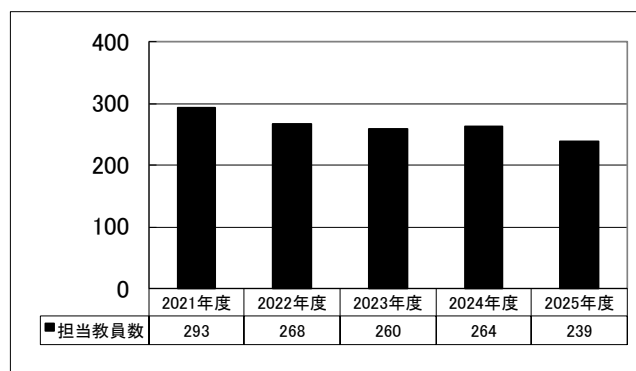


図 20 情報教室利用授業の担当教員数
※RISING 授業情報より算出

2) 情報教室の稼働率

2025 年度の情報教室稼働率は衣笠キャンパスでは微増であったが、BKC、OIC では減少している。（図 21）。なお朱雀キャンパスでは、「授業」用途での情報教室利用件数は 0 件であった。

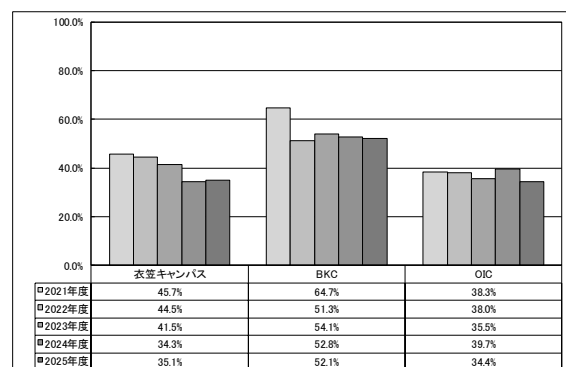


図 21 キャンパス別情報教室の稼働率

※「2024 年度基幹時間割について(起案: 教学推進課)」をもとに作成

※月～金曜日、1～4 限の教室稼働率

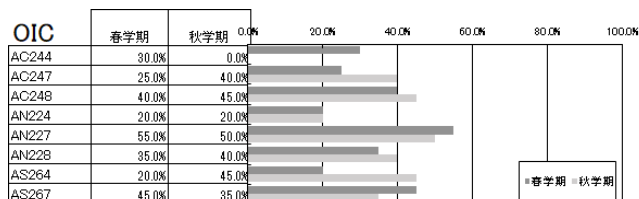
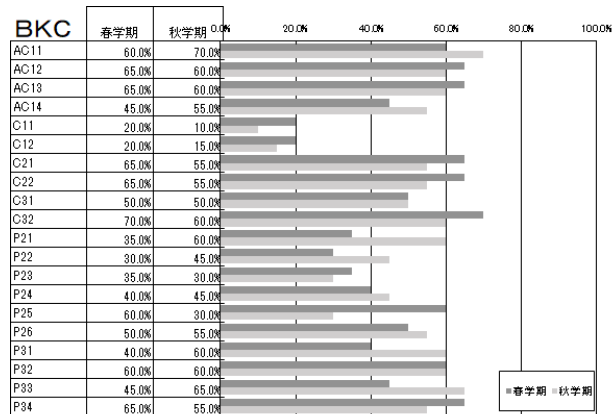
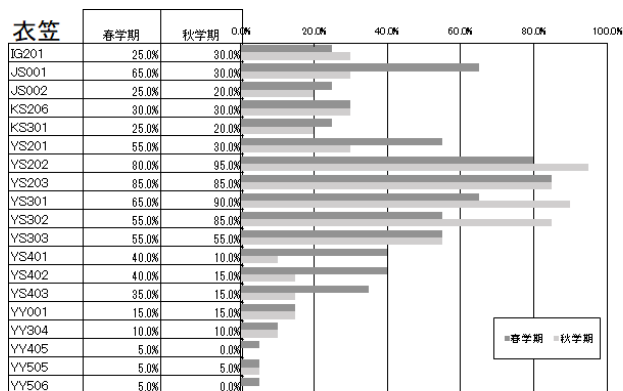


図 22 施設別 情報教室稼働率
※施設予約システム TriR より、開講 1 週間(月～金)の 1～4 限、利用種別「授業」で抽出

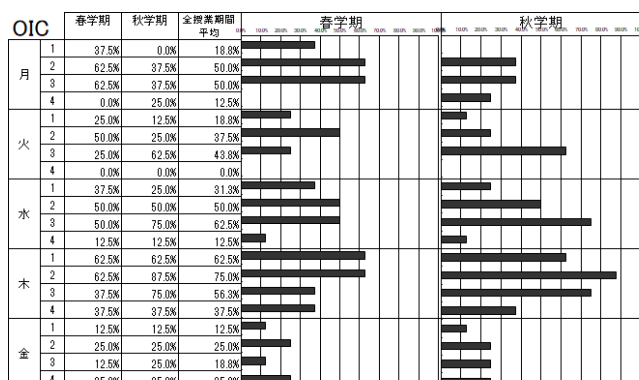
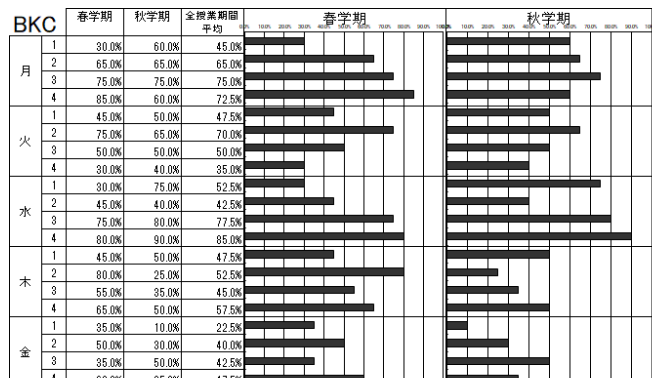
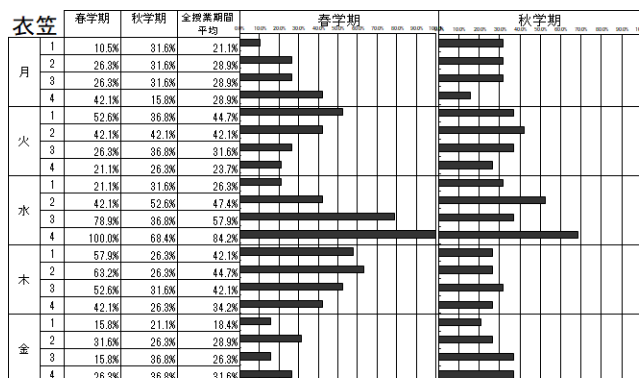


図 23 曜日時限別 情報教室稼働率
※施設予約システム TriR より、開講 1 週間(月～金)の 1～4 限、利用種別「授業」で抽出

2-2-3 マルチメディアルーム設置パソコンの利用状況

2024年度と比較してマルチメディアルームの延べログイン数は約30%減少し、実利用者数は約15%減少した。（図24、図25）。学部別・研究科別のログイン数、実利用者数、および利用率は図26～図31の通り。

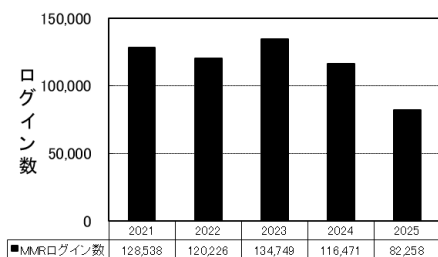


図24 MMR 延べログイン数の推移

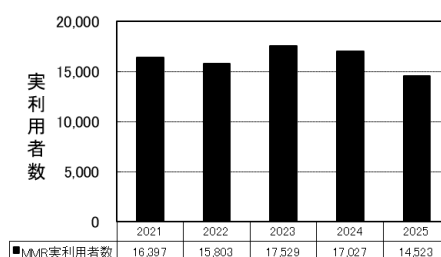


図25 MMR 実利用者数の推移

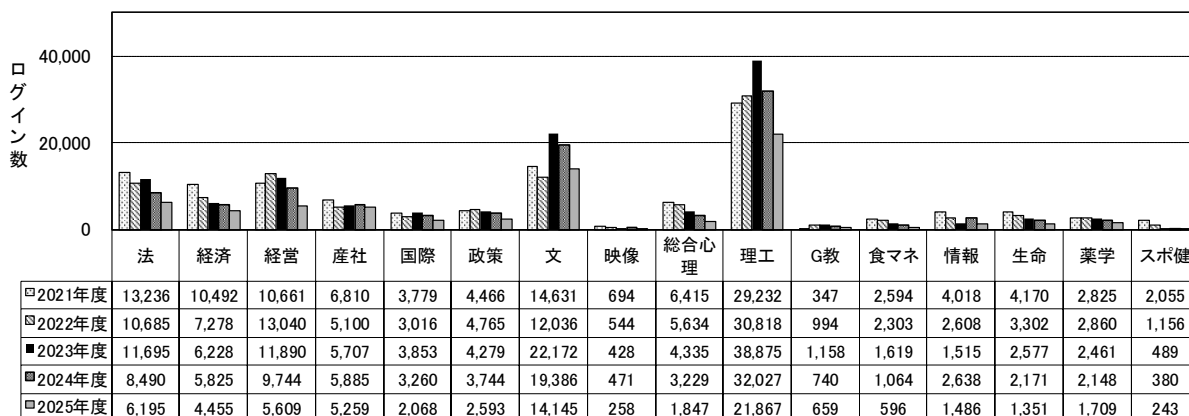


図26 学部別 MMR 延べログイン数の推移 ※学部の正規生・非正規生のみ

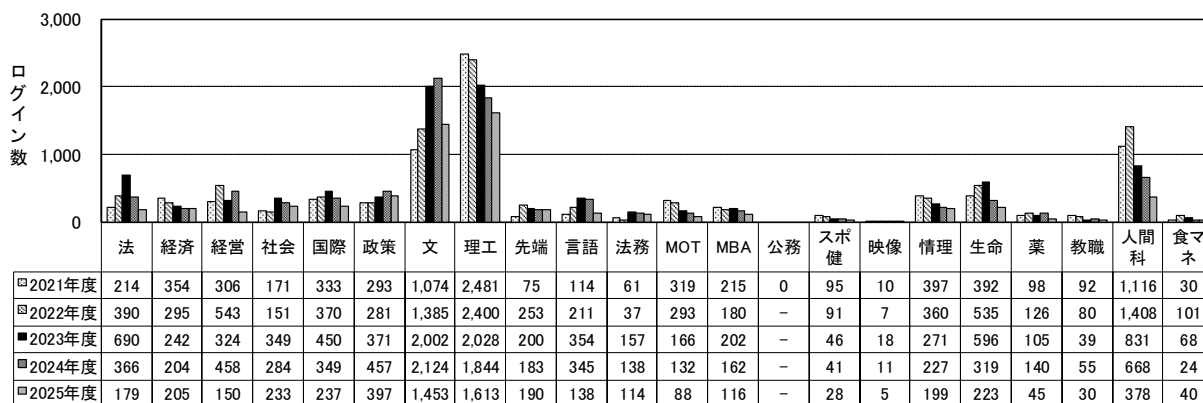


図27 研究科別 MMR 延べログイン数の推移 ※研究科の正規生・非正規生のみ

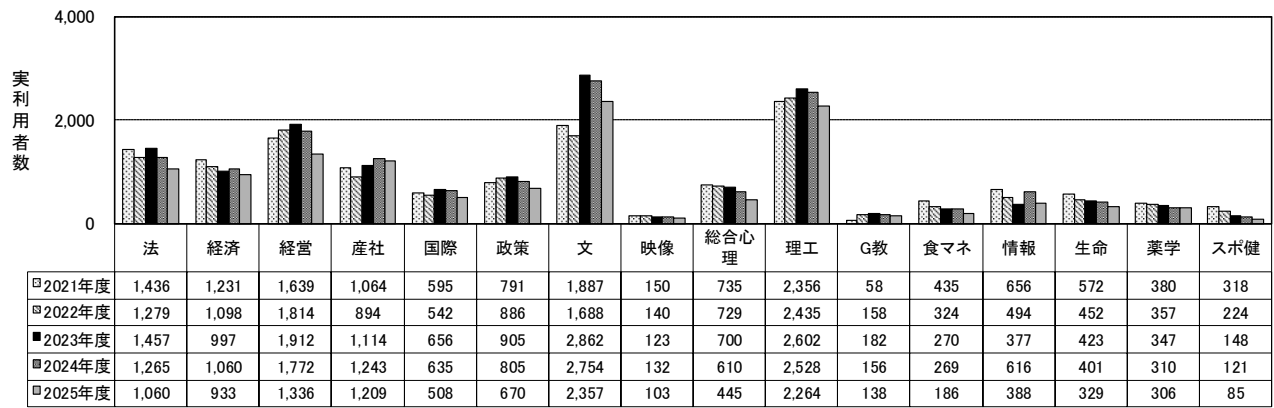


図 28 学部別 MMR 実利用者数の推移 ※学部の正規生・非正規生のみ

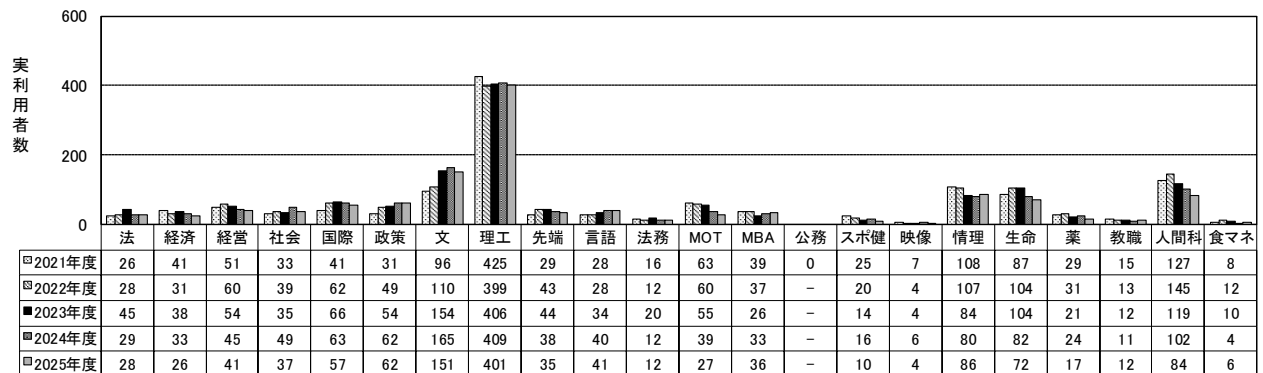


図 29 研究科別 MMR 実利用者数の推移 ※研究科の正規生・非正規生のみ

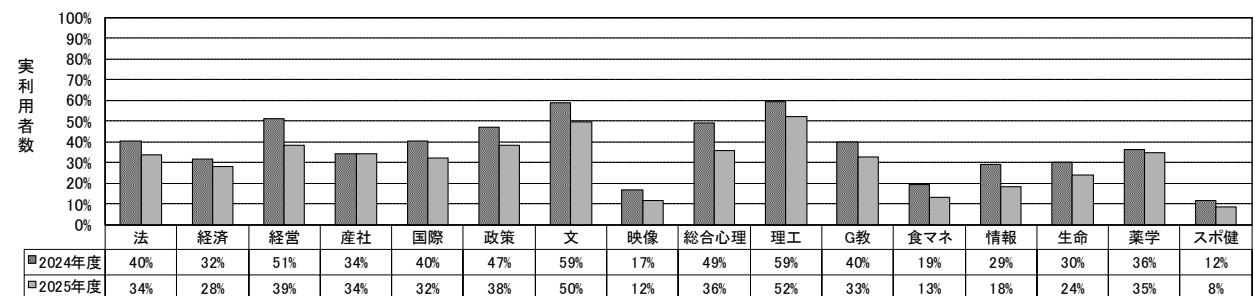


図 30 学部別 MMR 利用率 ※今年度からの新規図、学部の正規生・非正規生のみ

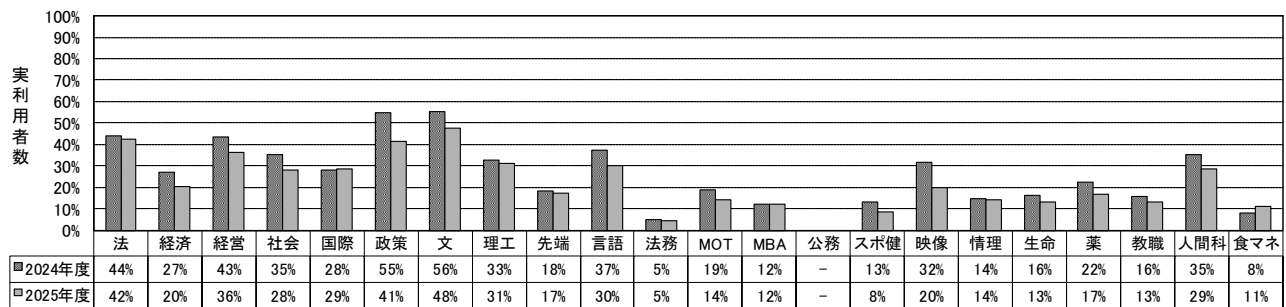


図 31 研究科別 MMR 利用率 ※今年度からの新規図、研究科の正規生・非正規生のみ

2-2-4 印刷環境の利用状況

1) 印刷総ページ数の推移

対象施設での印刷総ページ数は2020年度以降微増傾向にあったが、2025年度は2024年度と比較して大幅に増加した（約35%増）。（図32）。学部別、研究科別の印刷総ページ数は図33、図34の通り。

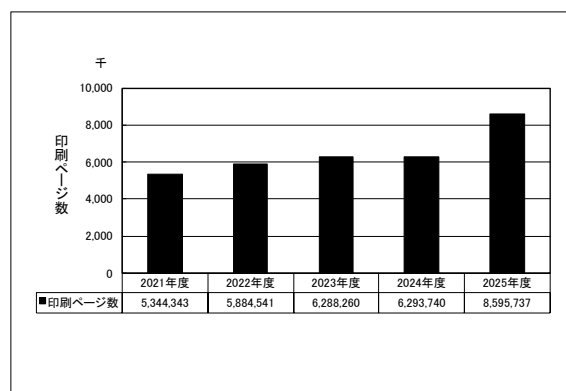


図32 対象施設(※)での印刷総ページ数の推移

※1 対象施設：表6で備考欄に「※」がついている施設

※学部/研究科の正規生・非正規生のみ

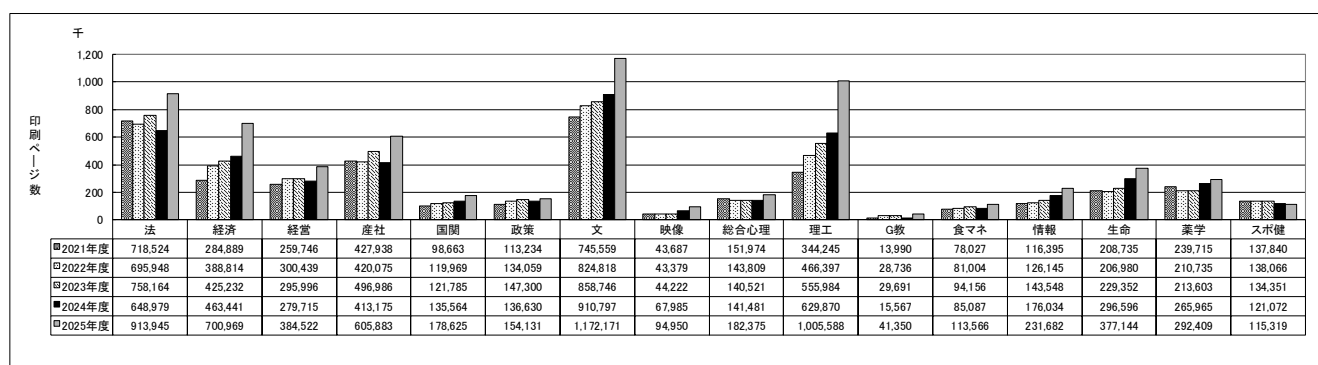


図33 学部別印刷総ページ数の推移 ※学部の正規生・非正規生のみ

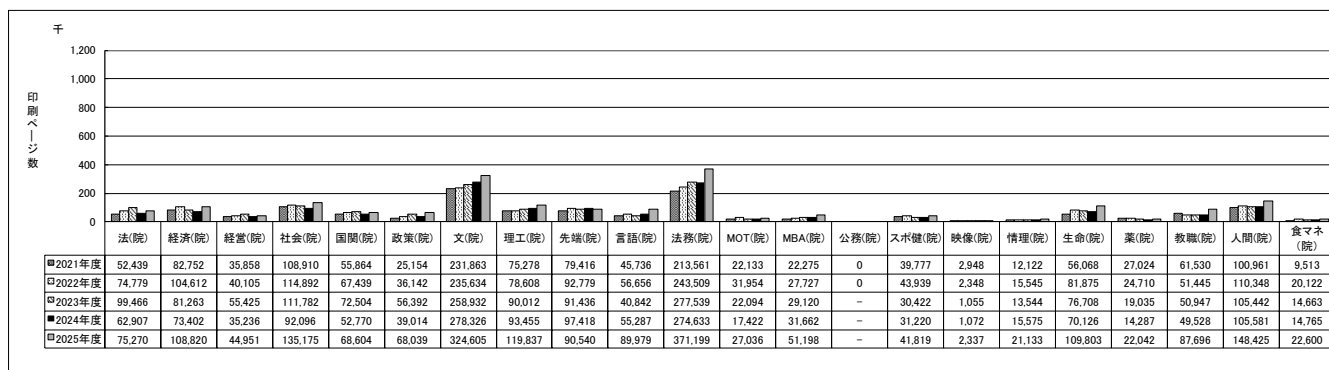


図34 研究科別印刷総ページ数の推移 ※研究科の正規生・非正規生のみ

2) 一人あたり平均印刷ページ数の推移

学部別、研究科別の一人あたり平均印刷ページ数の推移は図 35、図 36 の通り。

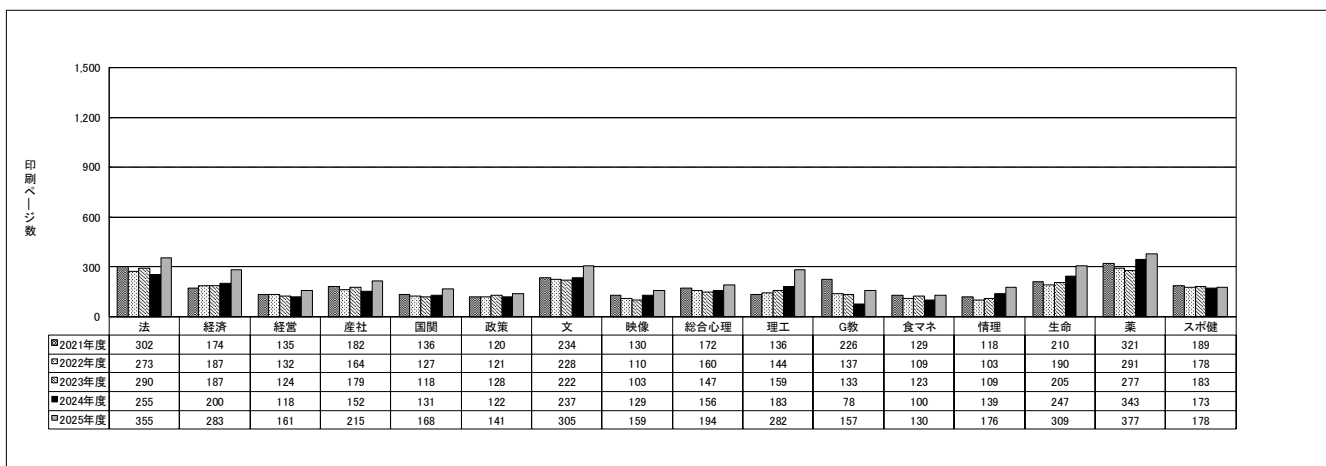


図 35 学部別一人あたり平均印刷ページ数 ※学部の正規生・非正規生のみ

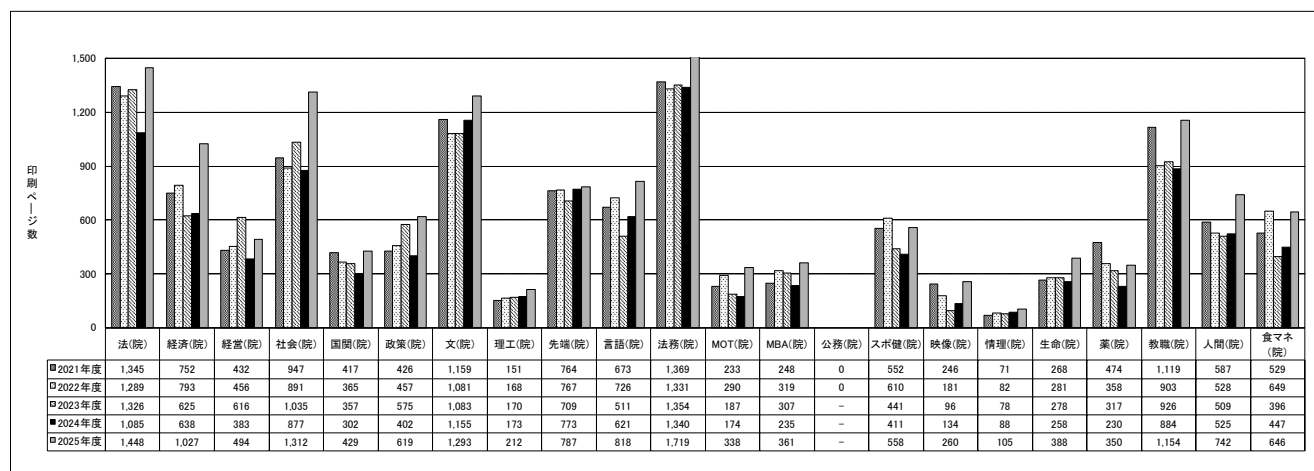


図 36 研究科別一人あたり平均印刷ページ数 ※研究科の正規生・非正規生のみ

3) 印刷ページ別利用者数

印刷ページ別利用者数の推移は図 37、図 38 の通り。学部生については前年度と比較して 401 ページ以上印刷する学生の割合が増加しているものの、ほぼ全ての学生が付与されたプリントポイントの範囲内に収まっている(学部 1,000 ページ、研究科 4,000 ページ)

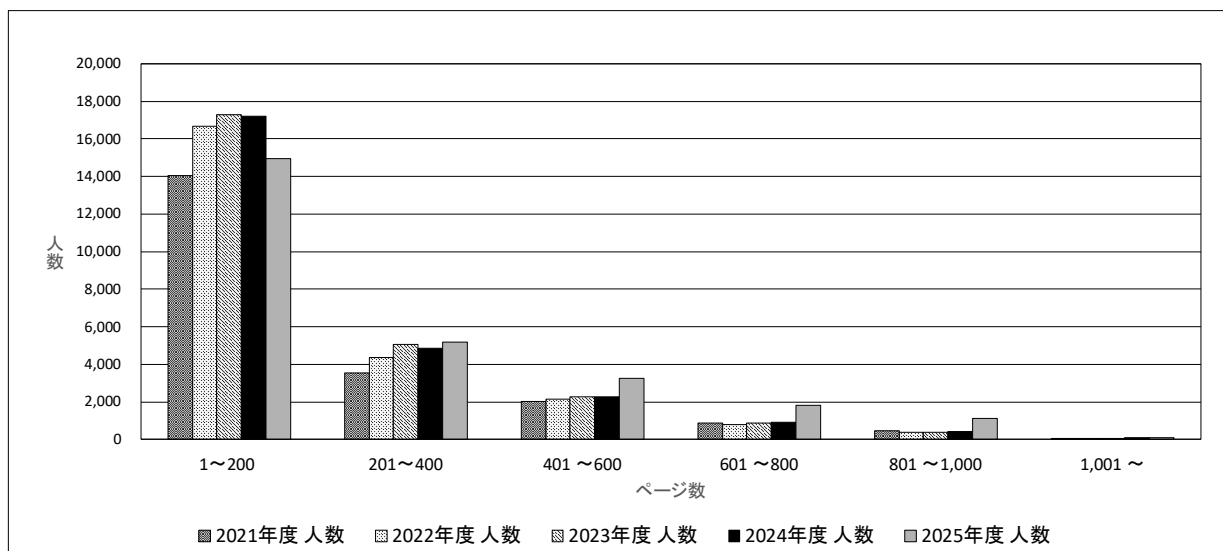


図 37 学部:印刷ページ別利用者数 ※学部の正規生・非正規生のみ

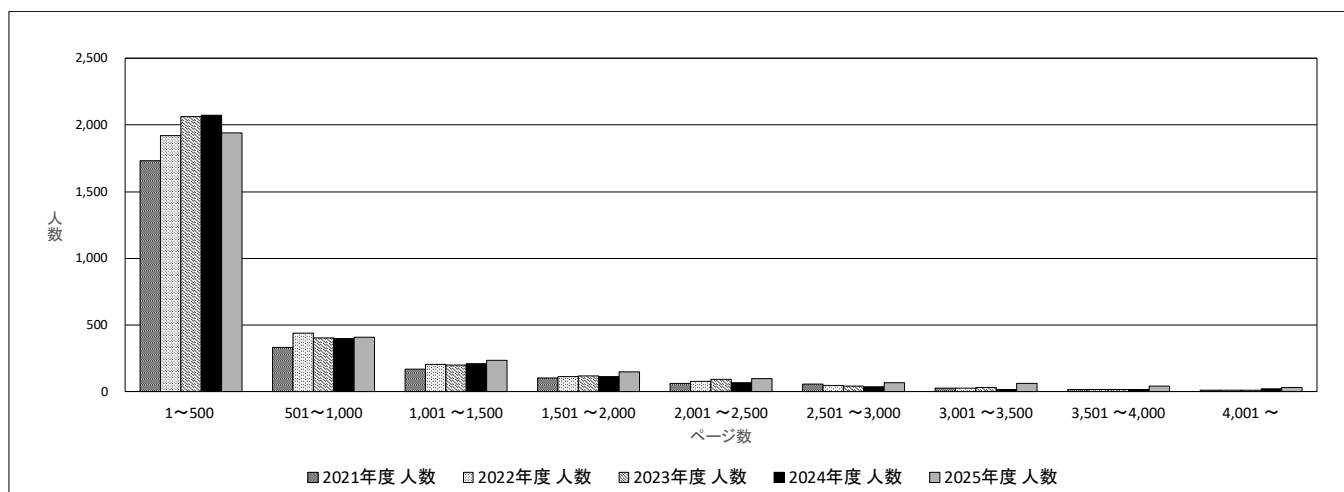


図 38 研究科:印刷ページ別利用者数 ※研究科の正規生・非正規生のみ

4) プリントステーション・MMR 設置複合機の利用状況

プリントステーションおよび MMR 複合機の利用状況は図 39 のとおり。2025 年度は利用者が持参したパソコン、タブレット端末、スマートフォンからの印刷が全体的に大幅に増加した。

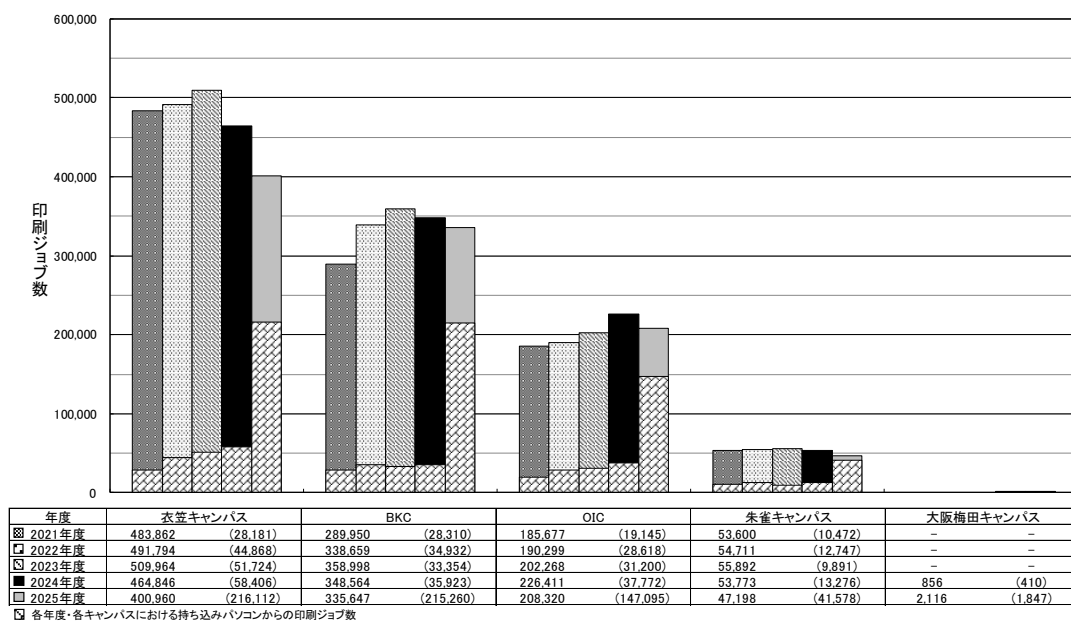


図 39 プリントステーション・MMR 設置複合機の印刷ジョブ数
※カッコ内は印刷ジョブ数のうち持込機器から出力したジョブ数の割合

5) OIC ICT-Lab.大判プリンターの印刷実態

OIC では ICT-Lab.内に、ポスターセッション等で教員、学生が利用できる大判プリンターを設置している。2024 年度まで利用回数は毎年度増加していたが、2025 年度は横ばいとなっている。

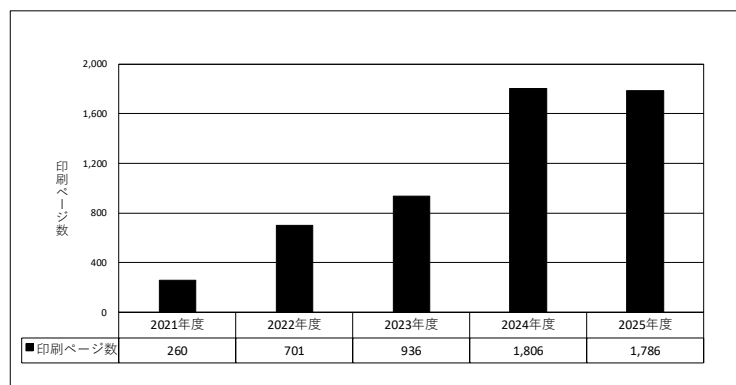


図 40 OIC ICT-Lab.大判プリンターの利用回数

2-2-5 授業・自習用パソコン(RAINBOW PC)のソフトウェア利用状況

情報教室、MMR 等におけるソフトウェアの利用状況は表 7 の通り。

年間で 100 回以上起動されたソフトウェアは 52 種で前年度の 53 種とほぼ同数であった。Microsoft Office 製品や Adobe 製品が上位を占めているが、Solid Edge や ArcGIS Pro、IBM SPSS Statistics などの専門性が高いソフトウェアも多く利用されていることが確認できる。

順位	アプリケーション名	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
1	Firefox	176,905	239,972	233,200	145,003	81,503
2	Microsoft Edge ※1	144,902	150,114	146,036	131,496	47,769
3	Microsoft Word	124,773	145,658	155,379	156,529	108,923
4	Microsoft Excel	98,640	96,908	100,924	99,326	49,557
5	Adobe Acrobat Reader	40,219	51,480	52,809	53,747	32,877
6	Microsoft PowerPoint	23,992	31,139	32,200	29,113	22,120
7	Solid Edge	21,360	22,306	23,139	20,931	10,437
8	7-Zip	19,089	21,025	20,869	7,371	-
9	MovieTeleco	13,994	15,480	11,250	3,380	6,388
10	ArcGIS Pro ※2	8,581	3,036	導入前	導入前	導入前
-	- ArcMap	-	9,160	10,539	9,434	3,063
-	- ArcGlobe	-	39	65	61	37
-	- ArcCatalog	-	37	95	98	38
-	- ArcScene	-	15	103	61	53
11	AudaCity	5,481	6,879	5,994	4,730	98
12	Global Voice CALL	4,711	4,180	3,606	2,632	0
13	Microsoft Visual Studio	4,313	1,269	1,489	887	788
14	GoogleChrome	3,788	5,577	7,638	11,567	12,779
15	IBM SPSS Statistics	3,633	4,076	4,954	2,925	2,174
16	Windows Media Player	3,391	4,599	2,504	2,392	2,405
17	Adobe Acrobat Professional ※1	3,072	3,553	4,586	15,442	124,283
18	Adobe Illustrator	3,041	4,359	4,206	4,840	4,649
19	ANSYS Fluent	2,644	3,130	3,023	3,301	0
20	MATLAB	2,573	3,598	5,360	4,738	2,208
21	GIMP	2,380	2,360	2,372	1,529	1,361
22	SketchUp Make	2,119	2,186	3,253	2,477	4,002
23	AutoCAD	2,046	1,924	5,152	1,193	1,525
-	- AutoCAD Map 3D ※3	-	-	-	-	74
24	Mastercam	1,903	1,364	1,042	511	144
25	Mathematica	1,794	2,799	601	423	584
26	Visual Studio Code	1,621	1,029	302	32	83
27	STATA	1,457	2,297	2,828	1,479	1,119
28	Windows Photo Gallery	1,443	2,168	2,377	3,366	14,579
29	Zoom	1,243	1,564	3,760	4,742	8,342
30	Cygwin	1,036	999	77	563	846
31	QGIS	979	101	40	158	100
32	KH Coder	806	1,376	373	581	250
33	Adobe Photoshop	696	805	1,140	2,426	4,157
34	R Studio	625	567	862	368	146
35	Borland C++ Builder	376	286	397	414	180
36	IBM SPSS Smartreader	354	439	304	333	7
37	Autodesk 3ds Max Design	324	423	964	330	99
38	ChineseWriter	286	435	258	992	0
39	Rasmol	282	216	154	-	466
40	BIOVIA Draw	268	114	333	256	272
41	秀丸	253	-	-	-	2,878
42	EViews	245	296	171	132	725
43	Microsoft Access	238	411	639	873	407
44	IBM SPSS AMOS	219	164	160	199	213
45	Active Perl	192	34	20	0	1
46	Tera Term Pro	187	210	261	273	211
47	R	162	631	674	509	147
48	Adobe Premiere	143	176	213	268	264
49	ANSYS ICEM CFD	143	133	114	115	48
50	ChemDrawProfessional	114	122	256	156	161
51	Panopto Recorder	114	111	157	228	17
52	フォト	107	導入前	導入前	導入前	導入前
53	Google Earth	98	184	217	363	293
54	Marc Mentat 2010 OpenGL	98	182	317	387	48
55	TeXWorks	70	14	20	217	325
56	AndroidStudio	48	64	73	86	-
57	JMP Pro	48	27	13	7	19
58	eclipse	47	45	36	54	32
59	gretl	41	37	55	56	-
60	Dreamweaver	40	46	80	27	46
61	GNUPlot	38	86	84	75	189
62	ANSYS Workbench	37	48	15	2	8
63	Irfan View	33	77	68	75	32
64	ANSYS SCDM	33	71	5	1	5
65	Vensim PLE	29	67	7	35	11
66	PowerDVD 12	26	30	15	113	35
67	Real Player	19	29	8	8	57
68	Windows Movie Maker	19	15	18	22	134
69	WinDVD	15	64	46	17	39
70	Adobe Animate ※4	14	18	18	26	46
71	WinSCP	13	82	79	137	511
72	NQCEdit	13	14	14	10	2
73	MOUSECUR	11	1	9	10	3
74	CalaboEX (教員)	10	0	0	0	0
75	Kindle for PC	9	12	17	13	12

順位	アプリケーション名	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
76	Patran	7	10	10	3	22
77	IDLE	7	3	6	11	463
78	MOS Excel 365 ※5	6	6	-	-	-
	- MOS Excel 2019	-	-	19	39	-
	- MOS Excel 2016	-	-	-	2	5
79	ANSYS CFDPOST	6	5	8	8	0
80	mandara	6	5	7	8	65
81	EPS-conv	6	3	4	3	7
82	DSP Changer	6	2	2	0	1
83	Processing	4	350	1,852	101	11
84	DocuWorks Viewer Light	4	6	4	3	20
85	dvout	4	0	2	1	18
86	－太郎ビューワー	3	6	6	18	26
87	MOS Word 365 ※6	2	3	-	-	-
	- MOS Word 2019	-	-	14	14	-
	- MOS Word 2016	-	-	-	-	2
88	MD Nastran	2	0	2	1	0
89	MOS PowerPoint 365 ※7	1	2	-	-	-
	- MOS PowerPoint 2019	-	-	10	20	-
	- MOS PowerPoint 2016	-	-	-	-	2
90	Microsoft Clipchamp	1	導入前	導入前	導入前	導入前
91	GSView	0	2	2	0	107
92	メタセコイア	0	2	1	2	4
93	PyCharm	0	1	0	1	29
94	MSC Apex	0	0	5	1	-
	- simXpert ※8	-	-	-	-	0
95	Marc Movie	0	0	2	1	0
96	WriteMonkey	0	0	2	1	0
97	KoreanWriter	0	0	1	0	0
98	POV-Ray	0	0	1	0	2
99	Adams_Flex	0	0	0	0	0
100	Adams_PostProcessor	0	0	0	0	0
101	Adams_Solver	0	0	0	0	0
102	Adams_View	0	0	0	0	0
103	AZ-Prolog	0	0	0	1	19
104	Lunacy	0	0	0	1	0

※1 PDFファイルの関連付けをAdobe Acrobat ProfessionalからAdobe Acrobat Readerに変更

2025年度秋学期より、MMR設置端末のみMicrosoft Edgeに関連付け

※2 2025年度よりArcMap (ArcGIS Desktop)からArcGIS Proに完全移行

※3 AutoCAD と AutoCAD Map 3Dを分けての集計が出来ない為、AutoCADに集計を統合

※4 MacroMedia Flash から Adobe Animate に名称変更

※5 MOS Excel 2019 から MOS Excel 365 に名称変更

※6 MOS Word 2019 から MOS Word 365 に名称変更

※7 MOS PowerPoint 2019 から MOS PowerPoint 365 に名称変更

※8 製品構成変更により simXpert は廃止(後継製品:MSC Apex)

※9 2016年度で運用停止:2017年度以降の検知はユーザ持ち込みの実行ファイル起動を検知した模様

表 7 情報教室、MMR 等でのソフトウェア利用状況

2-3 各種サービスの利用実態

2-3-1 メールシステムの利用状況

1) メールシステムの利用状況

図 41 はメールシステムで送受信および開封されたメッセージ数を算出したものである。図 42 はメールシステムの 1 日当たりの最大利用者数である。前年度と比較して、2025 年度は開封件数・1 日当たりの最大利用者数が増加した。

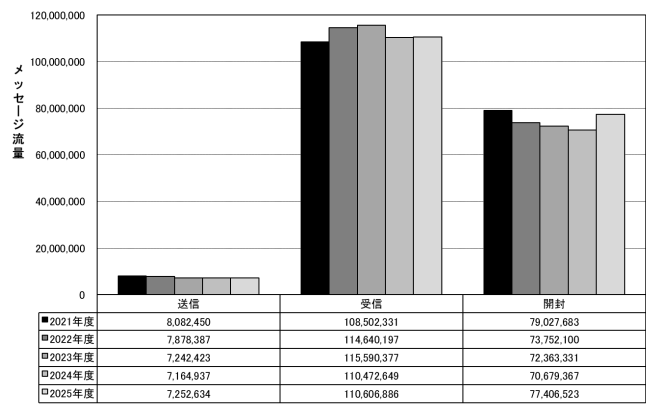


図 41 メッセージ流量
※ 利用状況は APU、附属校を含む学園全体

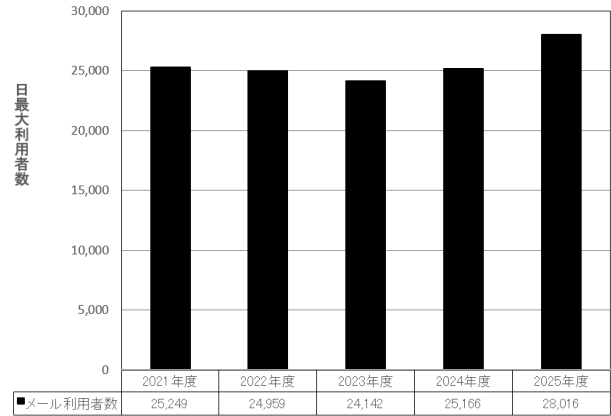


図 42 日最大メール利用者数
※ 利用状況は APU、附属校を含む学園全体

図 43 はメールボックスの利用総容量である。2024 年度は削除済みアイテムや迷惑メールの自動削除などの施策により容量の増加は緩やかに推移した。2025 年度は 1Q から 2Q にかけて卒業や退職による一時的な減少が見られたものの、2Q 以降は継続的な増加傾向にある。

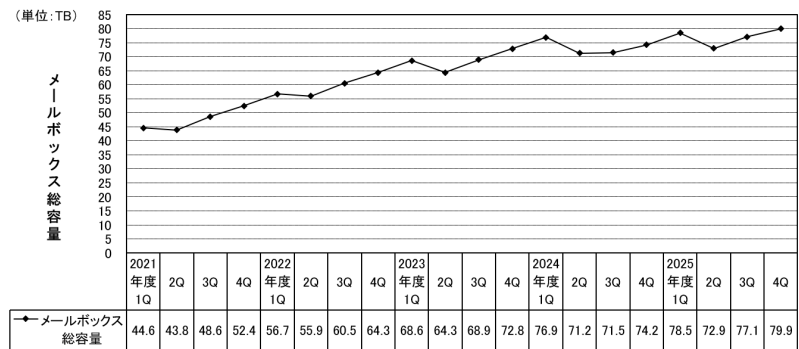


図 43 メールボックス利用総容量
※ 利用状況は APU、附属校を含む学園全体

図 44 は接続クライアントごとの利用者数である。2025 年度は、これまで同様に Web メールとスマートフォンアプリの利用者が増加傾向にある一方で、Windows 版 Outlook の利用者が減少している。

Outlook (Web)	Web メール
Outlook (Windows)	Windows 版 Outlook
Outlook(mac)	Mac 版 Outlook
Outlook(mobile)	Outlook for iOS/Android
Other(mobile)	スマートフォンアプリ
Mail(mac)	iOS、macOS の標準メール
POP3	POP3 接続した Thunderbird 等
IMAP4	IMAP4 接続した Thunderbird 等

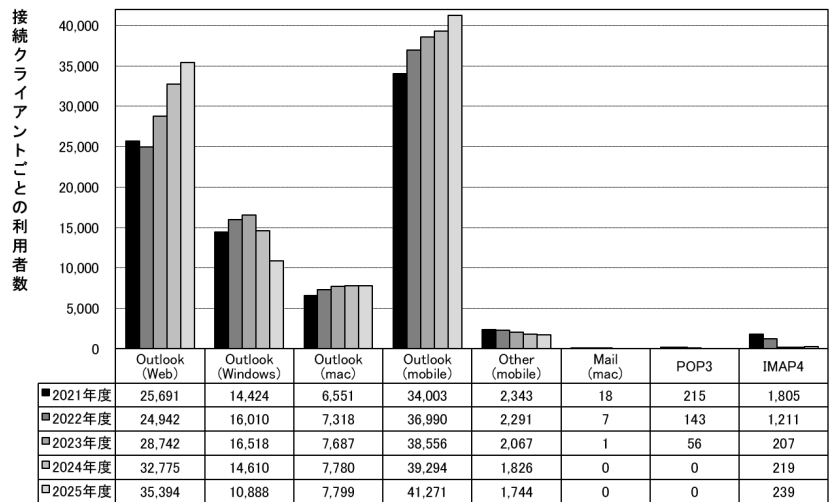


図 44 接続クライアントごとの利用者数
※ 利用状況は APU、附属校を含む学園全体

2-3-2 オンラインストレージの利用状況

図 45 は年度内にオンラインストレージを最も利用された日の状況である。年々増加傾向にあり、2025 年度も前年度と比較して利用者数が増加している。

Viewed or Edited	ファイル・フォルダを参照、または、編集した
Synced	パソコンと同期した
Shared Internally	学内ユーザと共有した
Shared Externally	学外ユーザと共有した

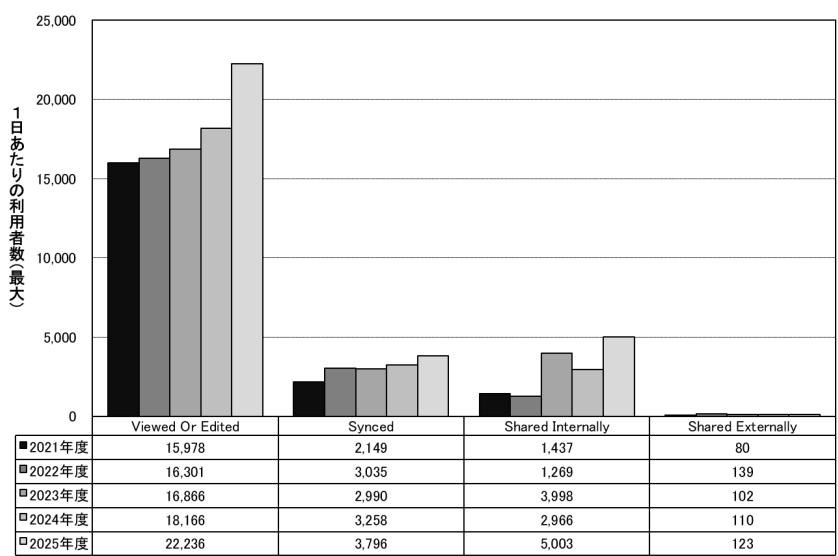


図 45 OneDrive 日毎の最大利用者数
※ 利用状況は APU、附属校を含む学園全体

図 46 は全利用者が利用しているデータ総容量である。2024 年度は学生の OneDrive 割当容量変更や不要データの削除協力依頼などの施策により容量の増加は緩やかに推移した。2025 年度は 1Q から 2Q にかけて卒業や退職による一時的な減少が見られたものの、2Q 以降は増加傾向が続いている。

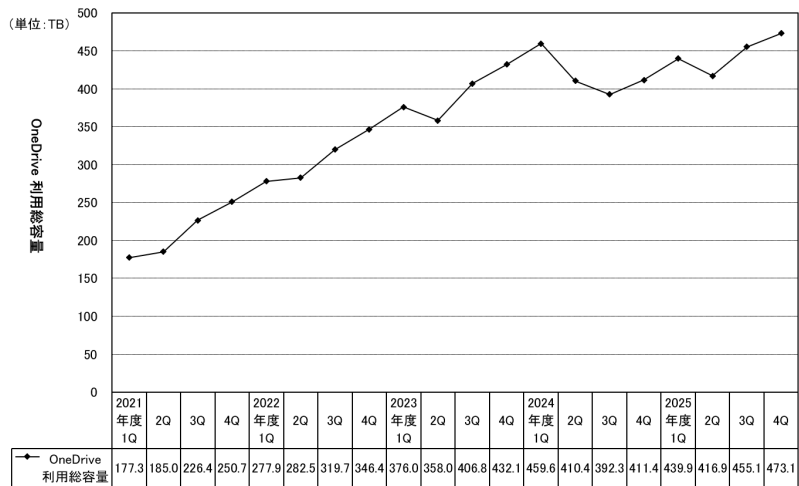


図 46 OneDrive 利用総容量
※ 利用状況は APU、附属校を含む学園全体

2-3-3 各種ソフトウェア配布の利用状況

1) Microsoft 365 Apps for enterprise の利用状況

「Microsoft 365 Apps for enterprise」は Word、Excel、PowerPoint、Outlook などの Office 製品（デスクトップ版およびモバイル版）を個人所有パソコンにインストールして利用できるサービスであり、図 47 はその利用者数およびデバイス数の年間推移である。

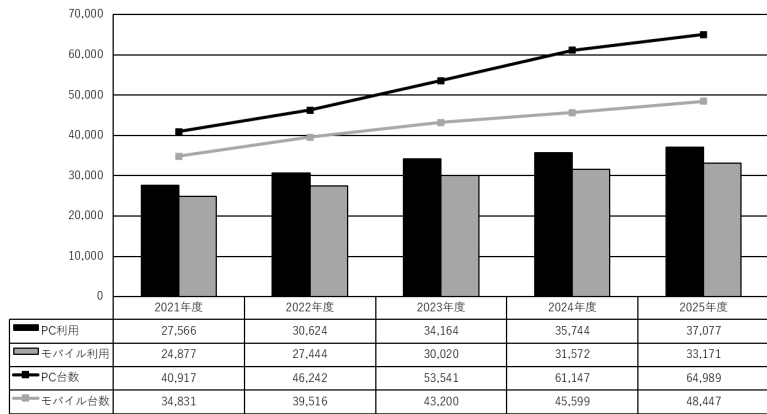


図 47 Microsoft 365 Apps for enterprise 年度別利用者およびデバイス数の推移

2) 配布ソフトウェアの利用状況

2016 年度から継続して Microsoft 社及び Adobe 社との包括ライセンス契約を締結しており、Microsoft 社及び Adobe 社製のソフトウェアを教職員に提供している。その他に情報教室用に導入したソフトウェアの内、教職員・学生へ配布可能なライセンス条件のものについては、教職員・学生へソフトウェアを提供している。また、新型コロナウイルス感染拡大によりオンラインキャンパスでの利用を前提として整備した情報教室の PC や授業用ソフトウェアの利用に大きな制約が生じたため、2021 年度からは授業での利用が多い IBM SPSS、ArcGIS、MATLAB について学生配布用のライセンスを取得し、オンラインでの配布を開始した。図 48 はソフトウェアの配布実績をオンライン、窓口ごとに製品別で表したものである。

Adobe 社製品については、個人利用 PC 用と共有 PC 用でライセンスが異なるため、別集計としている（個人利用「Adobe Creative Cloud」、共有利用「Adobe Creative Cloud SDL」）。

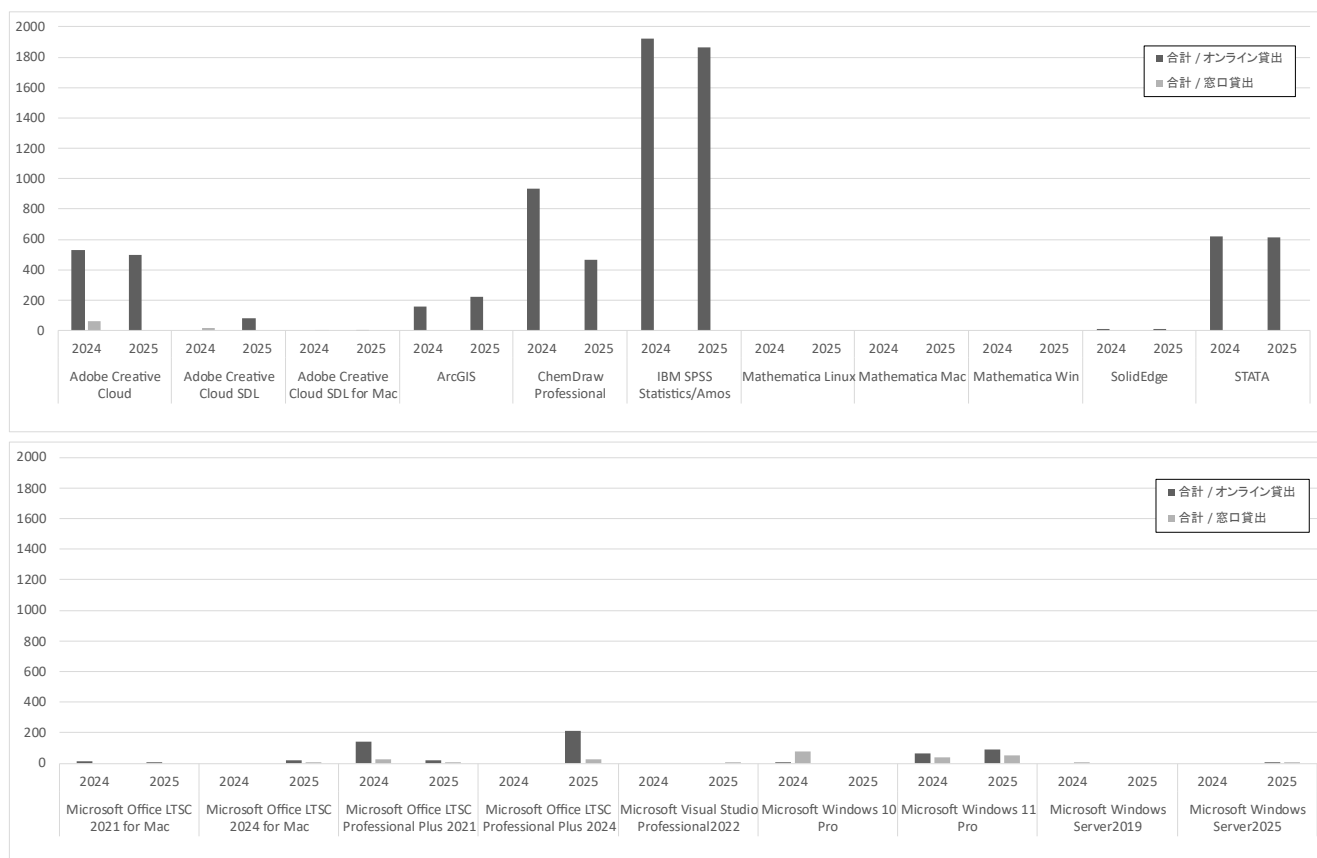


図 48 ソフトウェアの配布件数

2-3-4 視聴覚資料の貸出状況

視聴覚資料貸出は、大型ディスプレイやプロジェクタなどの教室 AV 機器利用促進のため 2000 年ごろにサービスを開始した。しかし現在では、多くの授業において視聴覚資料の利用以外で教室 AV 機器が活用されており、当初の利用促進としての役割は薄れている。

また、利用者数の減少や利用が個人単位にとどまっている状況を踏まえ、視聴覚資料の購入は 2023 年度秋学期をもって終了し、現在は既存資料の貸出のみを実施している。

2025 年度も貸出回数は減少し、貸出人数は横ばいとなっている。特定の教員による定期的な借用がほとんどであり、依然として大半が貸出実績のない状態である。

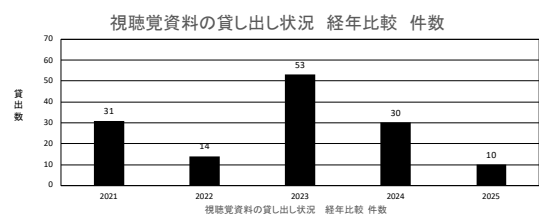


図 49 視聴覚資料の貸出回数

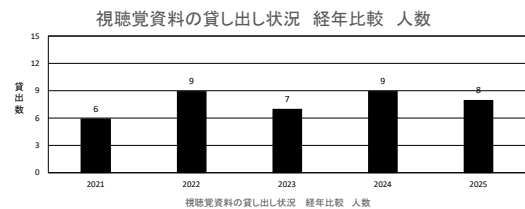


図 50 視聴覚資料の貸出状況 人数

3 情報セキュリティの脅威

情報セキュリティの脅威が年々高度化・巧妙化しており、本学も膨大な数のサイバー攻撃を受けているが、情報セキュリティ対策整備によりサイバー攻撃を検知し防御することで情報セキュリティ事故発生を未然に防いでいる。

全学ファイアウォールの IPS 機能により、サーバやネットワークの外部との通信を監視し不正アクセスを検知している（図 51）。また、Microsoft 365 のメールシステムで提供されているメールゲートウェイでは、接続元 IP 制限、マルウェア検知、検疫、迷惑メール検知、なりすまし検知などの機能を有しており多様なパターンのメールによる攻撃を検知・防御している（図 52、図 53）。

全学ファイアウォールの IPS 機能で検知・防御している攻撃数について、不具合への対応に伴うデータ欠損の影響で、2025 年度は正しい数値を取得できていない。なお、データ欠損中も IPS 機能は動作しており、データ欠損については 2026 年度改善予定である。

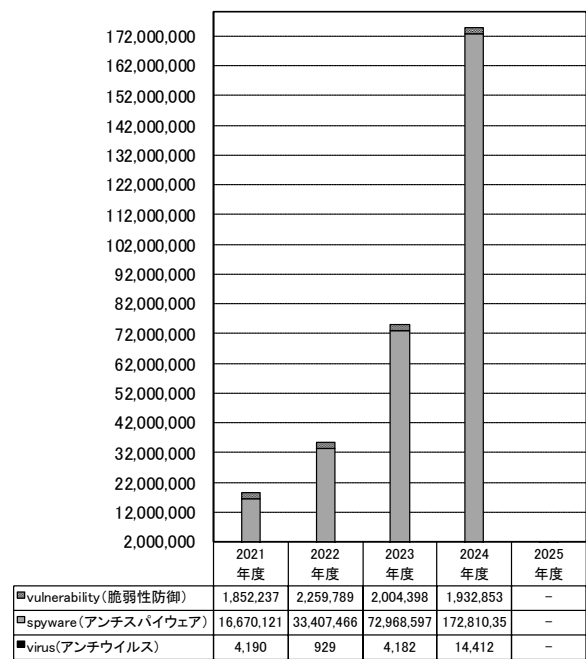


図 51 全学ファイアウォール IPS 機能(単位:アクセス件数)
※2025 年度のデータはデータ欠損に伴い未掲載

検出項目名称	概要
vulnerability (脆弱性防御)	コンピュータ上で動作するプログラムの不具合(脆弱性)について、コンピュータへの不正プログラムの埋め込み等を狙う攻撃を検知する機能。
spyware (アンチスパイウェア)	スパイウェアによる不審通信を検知する機能。スパイウェアとはコンピュータに常駐し、利用者が入力した情報やコンピュータ内に保存された情報を秘密裏に収集するプログラムを指す。
virus (アンチウイルス)	コンピュータウイルスのファイル送受信を検知する機能。コンピュータウイルスとはコンピュータに常駐して動作し、該当のパソコンのデータの破壊等を目的としているプログラムを指す。

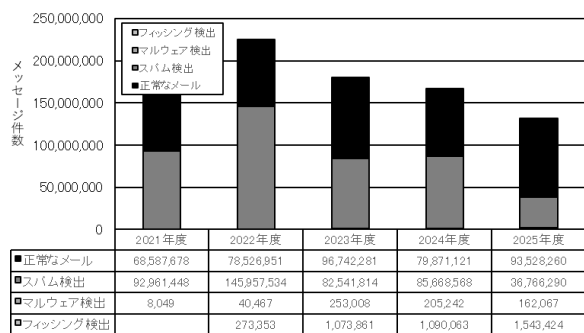


図 52 Microsoft 365 メールゲートウェイ検知件数

※ APU、附属校を含む学園全体

※ 2024 年度はデータ取得元の不具合により、一部の期間のデータを取得できていない

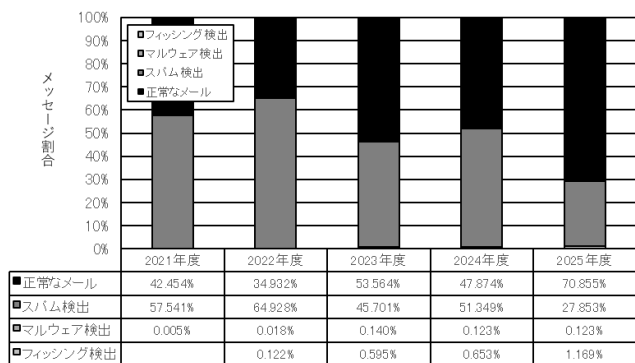


図 53 Microsoft 365 メールゲートウェイ検知割合

※ APU、附属校を含む学園全体

※ 2024 年度はデータ取得元の不具合により、一部の期間のデータを取得できていない

Microsoft 365 メールゲートウェイ検知において、2025 年度はスパム・フィッシング・マルウェア検出の割合が 29%を占めている。

日々変化する情報セキュリティの脅威に対し、今後も継続的に情報システムの情報セキュリティ対策を見直すとともに、国内外の情報セキュリティ関連情報を収集し、学内へ積極的に注意喚起していく。

4 参考資料

4-1-1 2021 年度～2025 年度 学部別学生数の推移

学部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
法学部	3,147	3,147	3,135	3,128	3,133
経済学部	3,234	3,249	3,303	3,330	3,335
経営学部	3,237	3,341	3,493	3,469	3,469
産業社会学部	3,413	3,346	3,488	3,649	3,540
国際関係学部	1,414	1,476	1,538	1,572	1,579
政策科学部	1,693	1,695	1,702	1,711	1,741
文学部	4,289	4,495	4,669	4,692	4,751
映像学部	683	693	695	793	893
総合心理学部	1,170	1,160	1,237	1,247	1,249
理工学部	3,945	4,087	4,234	4,266	4,317
GLA	195	278	357	389	421
食マネジメント学部	1,238	1,261	1,328	1,381	1,407
情報理工学部	1,970	2,020	2,082	2,104	2,102
生命科学部	1,254	1,279	1,282	1,335	1,368
薬学部	823	816	855	858	882
スポーツ健康科学部	992	1,033	1,021	1,034	1,027
計	32,697	33,376	34,419	34,958	35,214

※5月1日時点のデータ（教学推進課提供）を基に作成、非正規生含む

4-1-2 2021 年度～2025 年度 研究科別学生数の推移

研究科	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
法学研究科	48	61	81	66	66
経済学研究科	108	114	114	121	128
経営学研究科	115	116	103	104	113
社会学研究科	156	143	129	139	131
国際関係研究科	188	192	207	224	198
政策科学研究科	76	88	102	113	150
文学研究科	250	252	272	297	317
理工学研究科	1,073	1,107	1,111	1,246	1,276
先端総合学術研究科	194	201	213	210	204
言語教育情報研究科	88	92	98	107	136
法務研究科	186	168	235	250	264
テクノロジー・マネジメント研究科(MOT)	189	173	179	209	189
経営管理研究科(MBA)	178	194	210	269	296
公務研究科	1	0	0	0	0
スポーツ健康科学研究科	116	124	120	121	120
映像研究科	21	21	22	19	20
情報理工学研究科	462	497	517	552	595
生命科学研究科	422	461	480	500	539
薬学研究科	49	105	101	107	101
教職研究科	57	61	57	70	92
人間科学研究科	254	273	301	290	294
食マネジメント研究科	20	40	48	50	55
計	4,251	4,483	4,700	5,064	5,284

※5月1日時点のデータ（教学推進課提供）を基に作成、非正規生含む